

河内長野市遺跡調査会報Ⅹ

宮の下遺跡

宮の下農道新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1995年3月

河内長野市遺跡調査会

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう南河内の交通の要衝として発展してきた町です。

このため市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として近年、開発の波がおしよせてきています。

開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージを現在の市民、更には未来の市民へ伝えてゆかなければなりません。

本書は発掘調査の成果を収録しています。先人達のメッセージの一部でも理解するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成7年3月

河内長野市遺跡調査会
理事長 中尾 謙二

例　　言

1. 本報告書は平成5年度・平成6年度に河内長野市遺跡調査会が河内長野市から委託を受けて実施した宮の下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査費については全額河内長野市が負担した。
3. 調査は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦・鳥羽正剛を担当者として実施した。
4. 調査にかかる事務は調査会事務局長松垣孝康が主担した。
5. 本書の執筆は尾谷雅彦が行った。
6. 編集は尾谷が担当し、松尾和代が補助した。本書の文責は尾谷が負うものである。
7. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。（敬称略）
池田　武・嘉悦真紀子・喜多順子・久保八重子・古島亮介・小森　光・重野真紀・杉本祐子・田中良明・田川富子・中尾智行・中西和子・中村嘉彦・林　和弘・東田幸子・東原美佳・福島里浦・藤井美佐子・古池陽子・折本裕子・松村佳映・三井義勝・牟田口京子・株式会社八洲・株式会社鳥田組
8. 石器の実測に関しては、栗田　薰氏の助言を得た。
9. 調査の実施に関しては河内長野市環境経済部農林課の協力を得た。
10. 本調査の記録はスライドフィルム等でも記録しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1. 本報告書に掲載されている標高は T P を基準としている。
2. 土色は新版標準土色帖1990年度版による。
3. 平面測量基準は国家座標第VI系による 5 m メッシュを基に実施したものである。
4. 図中の北は座標北である。
5. 遺構名は下記の略記号をもちいた。
S B…掘立柱建物 S D…溝 S K…土坑 S P…ピット
6. 遺構実測図の縮尺は 1/30・1/40・1/60・1/80・1/100・1/300とした。
7. 遺物実測図の縮尺は土器 1/2・1/4、瓦 1/4、鉄器 1/3、石製品 1/4、石器 2/3、土製品 1/4とした。
8. 弥生土器・土師器・土師質土器・黒色土器の断面は白抜き、その他の断面は黒塗りである。また、黒色土器の黒色部分には、スクリーントーンを付した。
9. 遺物番号と写真図版の番号は共通する。

目 次

序文	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
図版目次	
付図目次	
第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経過.....	1
第2節 位置と環境.....	5
1 位置.....	5
2 歴史的環境.....	5
第2章 調査の結果.....	7
第1節 第1調査区.....	7
1 概略.....	8
2 遺構と遺物.....	8
第2節 第2調査区.....	31
1 概略.....	31
2 遺構と遺物.....	32
第3章 まとめ.....	41
第1節 第1調査区.....	41
1 遺構.....	41
2 遺物.....	41
第2節 第2調査区.....	42
1 遺構.....	42
2 遺物.....	42
第3節 最後に.....	43

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 河内長野市遺跡分布図（1/40000）	2

第3図 調査区位置図 (1/5000)	5
第4図 第1調査区土層断面実測図 (1/80)	7
第5図 S B 1 遺構実測図 (1/60)	8
第6図 S B 2 出上遺物実測図	8
第7図 S B 2 遺構実測図 (1/60)	9
第8図 S B 3 出土遺物実測図	9
第9図 S B 3 遺構実測図 (1/60)	9
第10図 S D 1 遺構断面実測図 (1/40)	10
第11図 S D 2 遺構断面実測図 (1/40)	10
第12図 S D 2 出土遺物実測図	10
第13図 S D 3 遺構断面実測図 (1/40)	10
第14図 S D 4 出土遺物実測図	10
第15図 S D 4 遺構断面実測図 (1/40)	10
第16図 S D 5 遺構断面実測図 (1/40)	10
第17図 S D 6 遺構断面実測図 (1/40)	11
第18図 S D 7 遺構断面実測図 (1/40)	11
第19図 S D 8 遺構断面実測図 (1/40)	11
第20図 S D 8 出土遺物実測図	11
第21図 S D 9 出土遺物実測図	11
第22図 S D 10 遺構断面実測図 (1/40)	11
第23図 S K 1 遺構断面実測図 (1/40)	12
第24図 S K 2 遺構実測図 (1/30)	12
第25図 S K 2 出土遺物実測図	12
第26図 S K 3 遺構断面実測図 (1/40)	12
第27図 S K 4 遺構断面実測図 (1/40)	12
第28図 S K 4 出土遺物実測図	13
第29図 S K 5 遺構断面実測図 (1/40)	13
第30図 S K 6 遺構断面実測図 (1/40)	13
第31図 S K 7 遺構断面実測図 (1/40)	13
第32図 S K 8 遺構断面実測図 (1/40)	13
第33図 S K 8 出上遺物実測図	13
第34図 S K 9 出土遺物実測図	14
第35図 S K 9 遺構実測図 (1/30)	14
第36図 S K 10 遺構断面実測図 (1/40)	14
第37図 S K 12 遺構断面実測図 (1/40)	14

第38図	S K12出土遺物実測図	14
第39図	S K13遺構断面実測図（1/40）	15
第40図	S K13出土遺物実測図	15
第41図	S K14出土遺物実測図	15
第42図	S K15遺構断面実測図（1/40）	15
第43図	S K16遺構実測図（1/30）	15
第44図	S K16出土遺物実測図（1）	16
第45図	S K16出土遺物実測図（2）	17
第46図	S K17出土遺物実測図	17
第47図	S K18遺構断面実測図（1/40）	17
第48図	S K19出土遺物実測図	18
第49図	S K20出土遺物実測図	18
第50図	S K21出土遺物実測図	18
第51図	S K22出土遺物実測図	18
第52図	S K23出土遺物実測図	18
第53図	S K24遺構断面実測図（1/40）	19
第54図	S K25出土遺物実測図	19
第55図	S K26遺構断面実測図（1/40）	19
第56図	S K27遺構断面実測図（1/40）	19
第57図	S P1出土遺物実測図	19
第58図	S P2遺構実測図（1/30）	19
第59図	S P2出土遺物実測図	20
第60図	S P3出土遺物実測図	20
第61図	S P5出土遺物実測図	20
第62図	S P6出土遺物実測図	20
第63図	S P7出土遺物実測図	20
第64図	S P8出土遺物実測図	20
第65図	S P9出土遺物実測図	21
第66図	S P10出土遺物実測図	21
第67図	S P11出土遺物実測図	21
第68図	S P12出土遺物実測図	21
第69図	S P13・16遺構実測図（1/30）	21
第70図	S P13出土遺物実測図	21
第71図	S P15出土遺物実測図	22
第72図	S P16出土遺物実測図	22

第73図	S P17出土遺物実測図	22
第74図	S P18出土遺物実測図	22
第75図	S P19出土遺物実測図	22
第76図	S P20出土遺物実測図	22
第77図	S P21出土遺物実測図	23
第78図	第1調査区包含層出土遺物実測図(1)	24
第79図	第1調査区包含層出土遺物実測図(2)	25
第80図	第1調査区包含層出土遺物実測図(3)	26
第81図	第1調査区包含層出土遺物実測図(4)	27
第82図	第1調査区遺構配置図(1/300)	29・30
第83図	第2調査区土層断面実測図(1/40)	31
第84図	S B4出土遺物実測図	32
第85図	S B4遺構実測図(1/60)	32
第86図	S B5遺構実測図(1/60)及び出土遺物実測図	33
第87図	S B6出土遺物実測図	33
第88図	S B6遺構実測図(1/60)	33
第89図	S D11出土遺物実測図	34
第90図	S D13出土遺物実測図	34
第91図	S K28出土遺物実測図	34
第92図	S K29出土遺物実測図	34
第93図	S K30出土遺物実測図	35
第94図	S K31出土遺物実測図	35
第95図	S K32出土遺物実測図	35
第96図	S P22出土遺物実測図	35
第97図	S P23出土遺物実測図	35
第98図	S P24出土遺物実測図	35
第99図	第2調査区包含層出土遺物実測図	36
第100図	第2調査区遺構配置図(1/300)	39・40

表 目 次

第1表	河内長野市遺跡地名表	3
第2表	第1調査区出土遺物の分類	41
第3表	第2調査区出土遺物の分類	42

図版目次

- 図版1 遺構 第1調査区 調査区全景
- 図版2 遺構 第1調査区 調査区全景(西から)、SB3・SK30(西から)
- 図版3 遺構 第1調査区 SD4・SD5・SD6(東から)、SK12(西北から)
- 図版4 遺構 第1調査区 SK9(北から)、SK16(東から)
- 図版5 遺構 第1調査区 SP3(西から)、SP17(北から)
- 図版6 遺構 第2調査区 調査区全景、調査区全景(北東から)
- 図版7 遺構 第2調査区 SB4・SB5(西から)、SB6・SD12(北から)
- 図版8 遺物 第1調査区 SB2(1)、SB3(2・3)、SD2(4)、SD4(5・6)、SD8(7)、SD9(8)、SK2(9~11)、SK4(12~18)、SK8(19)、SK9(20)、SK12(23)
- 図版9 遺物 第1調査区 SK9(21~22)、SK13(24)、SK14(25~26)、SK16(27~36・39~40)
- 図版10 遺物 第1調査区 SK16(37・38)、SK17(41~44・46・47)、SK19(48)、SK20(49)、SK21(50)、SK22(51・52)、SK23(54・55)、SK25(56)、SP1(57)、SP6(61)、SP7(62)、SP8(63)、SP9(64・65)、SP10(66~69)、SP11(70)、SP12(71)
- 図版11 遺物 第1調査区 SP2(58)、SP3(59)、SP5(60)、SP13(72~74)、SP15(75)、SP16(76)、SP17(77)、SP18(78)、SP19(79)、SP20(81)、SP21(82)、包含層(89~103)
- 図版12 遺物 第1調査区 包含層(83~85・87・104~119・121~132)
- 図版13 遺物 第1調査区 包含層(86・133~142・144~160)
- 図版14 遺物 第1・第2調査区 第1調査区包含層(161~165・167~174)、SB4(175~177)、SB5(178)、SB6(179)、SD11(180・181)、SD13(182)、SP22(192)、SP23(193)、SP24(194)
- 図版15 遺物 第2調査区 SK28(183~185)、SK29(186~188)、SK30(189)、SK31(190)、SK32(191)、包含層(195~213・217)
- 図版16 遺物 第2調査区 包含層(214~216・218~233・235・236)

付図目次

- 付図1 宮の下遺跡第1調査区遺構配置図(1/100)
- 付図2 宮の下遺跡第2調査区遺構配置図(1/100)

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

本市は近年の著しい人口増加も一段落し、成熟した住宅都市としての様相を呈してきた。しかし、まだまだそれに伴う都市の基盤整備を進めなければならない。このような状況の中で、河内長野市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備、文化会館などの文化施設の充実に努めている。

しかし、このような公共関係の整備も一般の開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできないものである。教育委員会と都市整備部とは、公事業に関連する埋蔵文化財の取り扱いについては計画段階からの保存協議を進め、文化財保護と開発の調整に力を注いだ。

本調査の原因となった宮の下農道新設事業についても周知の埋蔵文化財包蔵地外ではあるが、道路施工ということで総面積が500m²以上であることから計画段階から埋蔵文化財の取り扱いについて協議を進めた。

当該事業地については、平成4年に事業主体者で主管担当課である環境経済部農林課と教育委員会が予定地内について試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無を確認することに合意した。この調査については河内長野市遺跡調査会が実施することになった。

調査は平成5年に第1次施工計画部分(1000m²)を対象に平成5年5月19日から5月31日まで試掘調査を実施し、平安時代から中世の遺構・遺物を発見した。このことから文化財保護法第57条の6にもとづき、河内長野市長名で遺跡の発見通知が提出された。これに伴い教育委員会は当該遺跡を宮の下遺跡と命名し、担当課と協議して第1次施工計画部分について本調査を実施した。

また、第2次施工計画部分(750m²)を対象に平成5年10月25日から10月29日まで試掘調査を実施し、同様に中世の遺構・遺物を発見した。本調査は第1次分が平成5年7月19



第1図 遺跡位置図



第2図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町
2	河合寺	社寺	
3	觀心寺	社寺	平安～
4	大師山古墳	古墳	(前期)
5	大師山南古墳	古墳?	古墳(後期)
6	大師山遺跡	集落	弥生(後期)
7	興禪寺	社寺	
8	鳥帽子形八幡神社	社寺	室町
9	啄穴古墳	古墳	古墳(後期)
10	長瀬塗跡群	生產	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺	社寺	
14	金剛寺	社寺	平安～
15	日野觀音寺遺跡	社寺	中世
16	地藏寺	社寺	
(17)	岩湧寺	社寺	平安～
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	烏帽子形城跡	城館	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	鉢文～中世
22	鳥帽子形古墳	古墳	(後期)
23	木広窯跡	生產	縄文～中世
24	塙谷遺跡	散布地	
25	深谷八幡神社	社寺	
26	蟹井瀬南遺跡	散布地	中世
27	蟹井瀬北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千里口駿南遺跡	散布地	中世
30	岩瀬東城寺	墳墓	近世
31	清水遺跡	散布地	中世
32	仲哀天皇跡	古墳?	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
34	池煙埋葬墓	墳墓	近世
(35)	中村阿旁堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿旁堂跡	社寺	近世
39	飛尻赤跡	社寺	近世
(40)	宮ノ下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳?	古墳
42	宮山遺跡	散布地	縄文～中世
43	西代蕃津尾跡	城館	江戸
		散布地	飛鳥～奈良
44	上原町墓地	墳墓	
45	懶持寺跡	社寺	鍾倉
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ヶ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	中世
49	佐吉神社遺跡	社寺	中世
50	高向神社遺跡	社寺	中世
51	青が原神社遺跡	社寺	中世
52	勝所蘆河州出張所跡	城館	江戸
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世
55	河合寺城跡	城館	
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	室町
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	沙の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	稻荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗城跡	城館	中世
64	雁現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	
(66)	葛城第15経塚	経塚	
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
68	唐中堂	社寺	
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	
(73)	葛城第18経塚	経塚	
(74)	葛城第19経塚	経塚	
(75)	笛尾窯	窯	中世
(76)	大沢窯	窯	中世
(77)	三国山経塚	経塚	
(78)	光魂寺	社寺	
(79)	猪子城跡	城館	中世
80	蟹井源神社遺跡	社寺	
(81)	川上神社遺跡	社寺	
82	千代田神社遺跡	社寺	
83	向野遺跡	集落	縄文～室町
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	散布地	
86	大日寺遺跡	社寺	中世
87	高向南遺跡	散布地	鍾倉
88	小塙遺跡	集落	縄文～奈良
89	加坂遺跡	集落	古墳(後期)
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノマエ遺跡	城館?	中世
92	仁工山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	城館	近世
96	市町東遺跡	散布地	秀生・中世
97	上田町窯跡	生產	近世
98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
99	西之山町遺跡	集落	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾窯跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塙	墳墓	
(105)	葛城第17経塚	経塚	
106	若篠堂跡	跡	社寺
107	野作遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	無落	奈良・中世
(109)	施原遺跡	散布地	中世
110	法師塙古墳跡	古墳	
111	山上溝山古墳跡	古墳	
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安・中世
115	栄町遺跡	散布地	縄文・古墳
116	錦町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	中世
118	錦町北遺跡	社寺	中世
119	市町西遺跡	散布地	縄文・中世
120	栄町南遺跡	散布地	中世

() は地図範囲外

第1表 河内長野市遺跡地名表

日から平成5年9月8日まで、第2次調査として平成6年1月10日から平成6年2月14日まで実施した。そして、これらの整理作業と報告書作成を平成5年4月1日から平成6年3月25日まで実施した。

第2節 位置と環境

1 位置

当該遺跡は大阪府河内長野市高向地内に位置し、標高は約120mを測る。遺跡は和泉葛城山系から流れ出た石川の左岸、低位段丘上に広がる。この付近から天見川の合流地点までは、左岸に低位と中位の段丘が発達し河内長野市域の平坦部の大部分を構成している。

この和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって作られた谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。



第3図 調査区位置図 (1/5000)

2 歴史的環境

遺跡もまた、谷筋毎に分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡、小塙遺跡の4遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡からは中期後半の土器と共に堅穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡や小塙遺跡からは早期の押型文土器が出土している。これらの遺跡以外に高向遺跡、高木遺跡、寺ヶ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

弥生時代は石川左岸の塩谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期の遺物が、大師山遺跡からは後期の遺物が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳である大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の鳥帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町から寿町にかけては五ノ木古墳、法師塚古墳、双子塚古墳などの古墳が分布していた。また、石川の左岸の上原町には塚穴古墳が現存している。集落遺跡では前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに喜多町遺跡、そして当該遺跡と同じ段丘上に近接して小塙遺跡、加塙遺跡がある。

奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、小塙遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狭山市との市境の小山田町からは2基の火葬墓が発見されてい

る。

平安時代の遺跡は向野遺跡や天見川沿いの尾崎遺跡の10世紀の掘立柱建物や三日市遺跡の11～12世紀の掘立柱建物、そして石川本流の野間里遺跡が確認されている。また市内にある觀心寺や金剛寺などの寺院は平安時代末頃から伽藍が整い多くの莊園を有していた。

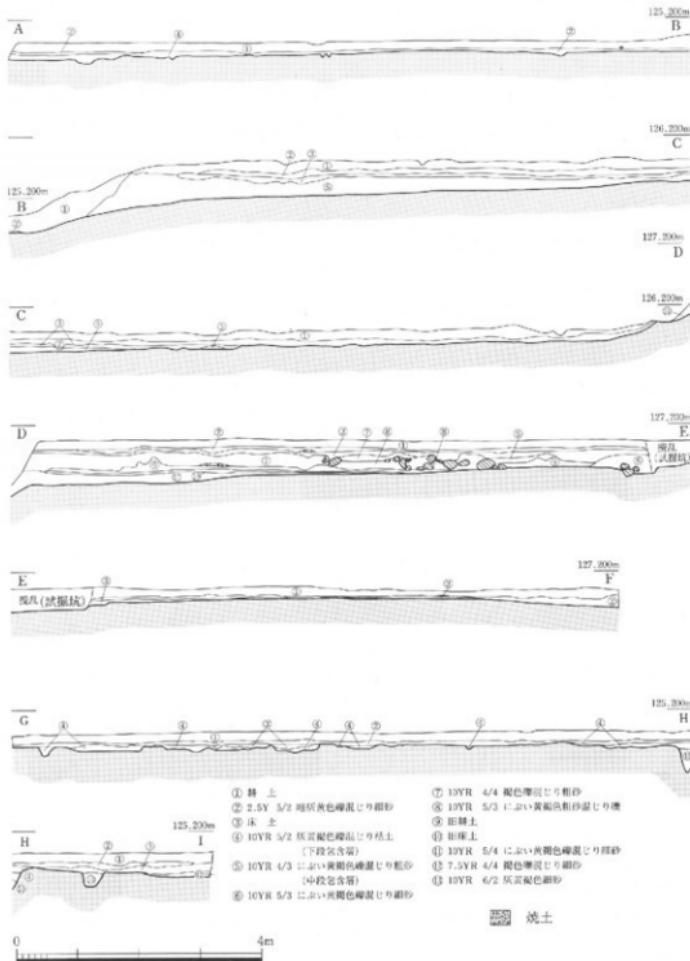
中世になると、交通路が整備され各谷筋を通る高野街道や天野街道沿いに集落が分布している。とくに、西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南に伸びる高野街道では、合流付近の長野神社遺跡や、喜多町遺跡、更に南に三日市遺跡、尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡（寺院跡も含む）、天見駅北方遺跡、蟹井淵北遺跡、蟹井淵南遺跡と続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、同じように街道を見下ろす尾根上には南北朝から戦国時代にかけての城塞が20数ヶ所分布している。生産遺跡としては平安時代から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。

近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに、確認数は少ないが近世瓦窯跡も、地元の伝承通り確認されている。

当遺跡の周囲を見れば、中位段丘上には高向遺跡が位置する。また石川の対岸には縄文時代の宮山遺跡や古墳時代の宮山古墳、サヌカイト片が散布する高木遺跡がある。宮の下遺跡の周囲は遺跡が密に分布する所である。

第2章 調査の結果

第1節 第1調査区



第4図 第1調査区土層断面実測図 (1 / 80)

1 概略

本調査区は遺跡の南側に位置し、標高130mを測る。調査区のある低位段丘は中位段丘崖から石川に向かって高度を下げている。調査区の東側は石川が流れ、川原と約5mの比高差がある。西側は中位段丘と約27mの段丘崖がある。調査面積は約1000m²である。

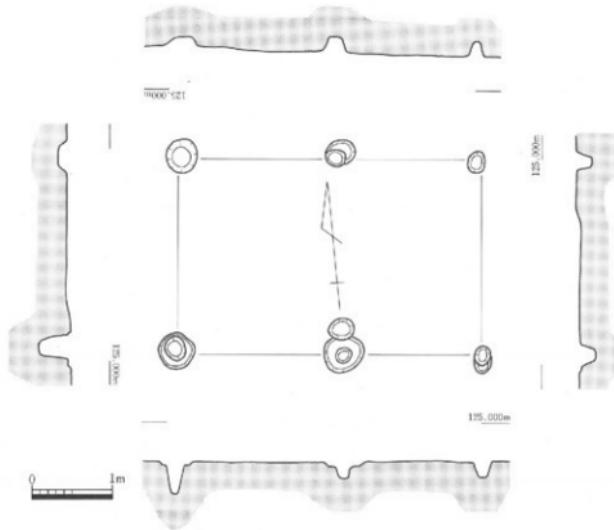
2 遺構と遺物

(1) 堀立柱建物

[SB 1] (第5図)

第1調査区の下段南側端で検出されている。桁行2間(3.7m)×梁行1間(2.4m)の建物である。桁行方向はN-85°-Wを示す。桁行柱間は西側から2m・1.7mを測る。柱穴は径0.2m、深さは0.2mで掘方は椭円形で長径0.4mを測る。建物はSK15・16と重複している。

実測可能な遺物は出土しなかった。

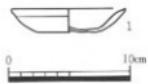


第5図 SB 1遺構実測図(1/60)

[SB 2] (第6図・7図、図版8)

調査区の下段北側でSB 3の西側3mに位置する。桁行1間(2m)×梁行1間(1.9m)の建物である。桁行方向はN-4°-Eを示す。掘方は椭円形で長径0.3m、深さは0.05mで柱穴は確認できなかった。建物としては規模も小さく柱の本数も4本であるところから倉庫小屋のようなものと考えられる。

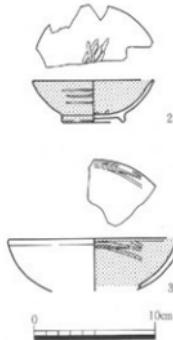
遺物は南西隅の柱穴から土師質皿（1）が出土した。



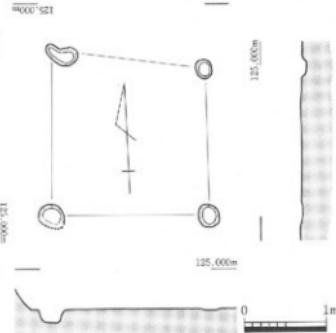
第6図 SB 2出土遺物実測図
〔SB 3〕（第8図・9図、図版2・8）

調査区の下段北側でSB 2の東側3mに位置し、SK 26と重複する。桁行2間(4.4m)×梁行1間(2.2m)の建物である。桁行方向はN-4°-Eを示す。桁行柱間は北側から2.4m・1.9mを測る。柱穴は確認されず、掘方だけで平均径0.3m、深さは0.2mを測る。

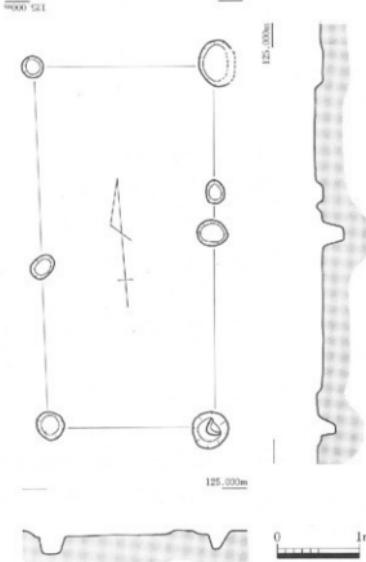
遺物は北西と南西隅の柱穴から、黒色土器B類塊（2）と黒色土器A類塊（3）が出土した。



第8図 SB 3出土遺物実測図



第7図 SB 2遺構実測図（1/60）



第9図 SB 3遺構実測図（1/60）

(2) 溝

〔SD 1〕 (第10図)

調査区の上段西側端で南北に約7.6mの長さで検出された。南端は調査区外に走るようである。埋土は褐灰色粗砂の一層である。最大幅は1.2m、深さは0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD 2〕 (第11図・12図、図版8)

調査区の上段中央でSD 3の西侧を平行するように南北に走る。検出長は約6.1mである。北端は不明であるが調査区内で終わる。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は1m、深さは0.09mを測る。

実測できたのは土師質の土釜(4)1点であった。

〔SD 3〕 (第13図)

調査区の上段中央でSD 2の東側を平行するように南北に走る。検出長は約6.3mで、SD 2と同様に北端は不明であるが調査区内で終わるようである。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は0.7m、深さは0.09mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SD 4〕 (第14図・15図、図版3・8)

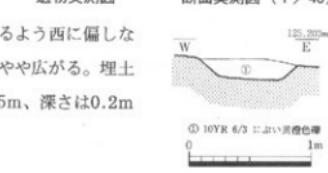
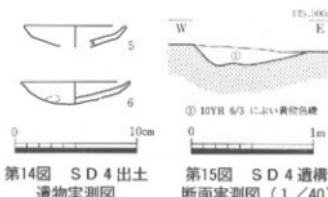
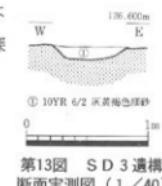
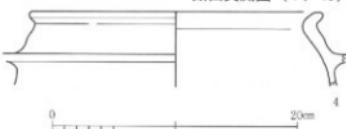
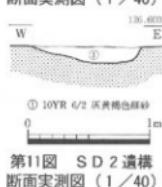
調査区の中段中央でSD 5の西侧を平行するよう西に偏しながら約6.9mの長さで検出された。溝は北端がやや広がる。埋土はにぶい黄橙色礫の一層である。最大幅は2.0m、深さは0.2mを測る。

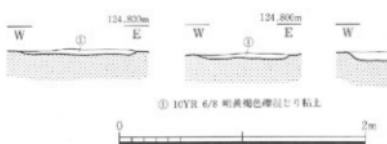
実測できたのは土師質の皿(5・6)の2点であった。

〔SD 5〕 (第16図、図版3)

調査区の中段中央でSD 4の東側を平行するよう西に偏しながら約19mの長さで検出された。溝は北端がやや広がる。埋土はにぶい黄橙色礫の一層である。最大幅は1.5m、深さは0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。





第17図 SD 6 遺構断面実測図 (1/40)

[SD 6] (第17図、図版3)

調査区の下段の西端で中段との境で南北に30m検出され調査区外に走る。埋土は明黄褐色疊混じり粘土の一層であった。最大幅は1.4m、深さは0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

[SD 7] (第18図)

調査区の下段でS B 1 の北側約3mに位置し、東西に5.5m走るのが検出された。溝は不定形な形状を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は1.5m、深さは0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

[SD 8] (第19図・20図、図版8)

調査区の下段でSD 7 の北側約3mに位置し、東西に6.6m走り、東側は調査区外に広がる。溝は不定形な形状を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。最大幅は3.2m、深さは0.1mを測る。

実測できたのは土師質の壺(7)1点であった。

[SD 9] (第21図、図版8)

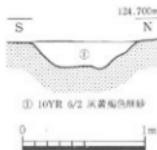
調査区の下段の北側でS B 2 の南側約1mに位置する。溝は不定形な形状を呈し、西側をSD 6 によって切られている。最大幅は1.2m、深さは0.1mを測る。

実測できたのは土師質の皿(8)1点であった。

[SD 10] (第22図)

調査区の下段の北側でS B 3 の東側約4mを南北に走る。検出長は8.3mを測り南端は調査区外にのびる。埋土は褐灰色粗砂の一層である。最大幅は0.45m、深さは0.2mを測る。

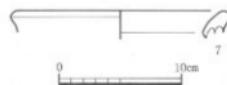
実測可能な遺物は出土しなかった。



第18図 SD 7 遺構断面実測図 (1/40)



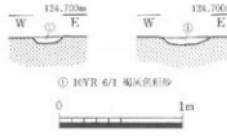
第19図 SD 8 遺構断面実測図 (1/40)



第20図 SD 8 出土遺物実測図



第21図 SD 9 出土遺物実測図



第22図 SD 10 遺構断面実測図 (1/40)

(3) 土坑

[SK 1] (第23図)

調査区の上段でSD 1の東側約1mに位置する。平面形は不定形な長椭円形を呈する。埋土は褐灰色粗砂の一層である。主軸方向はN-18°-Eを示す。長径2.07m、短径1.06m、深さ0.15mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

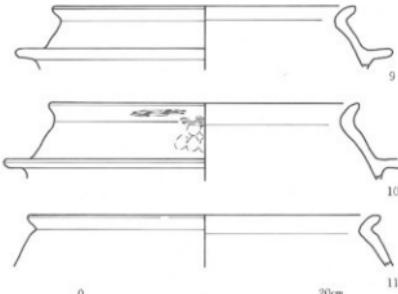
[SK 2] (第24図・25図、図版8)

調査区の上段でSK 1の東側約2mに位置する。平面形は不定形な土坑で東側は削平されている。遺構内西側からは土師質の土釜が出土した。長軸1.66m、短軸1.27m、深さ0.1mを測る。

出土遺物は土師質土釜(9~11)
がある。



第24図 SK 2 遺構実測図 (1/30)



第25図 SK 2 出土遺物実測図

[SK 3] (第26図)

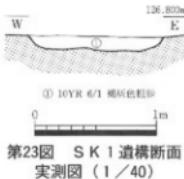
調査区の上段でSK 2の北側約1.5mに位置する。平面形は不定形な椭円形を呈している。埋土は褐灰色粗砂の一層である。主軸方向はN-51°-Wを示す。長径0.98m、短径0.46m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

[SK 4] (第27図・28図、図版8)

調査区の上段でSK 1の北側約8mに位置する。平面形は椭円形を呈する。埋土は褐灰色粗砂の一層であるが、土坑内部には川原石が充填されていた。主軸方向はN-1°-Wを示す。長径1.8m、短径1.53m、深さ0.38mを測る。

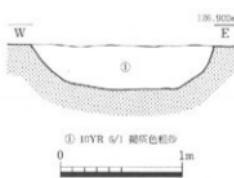
出土遺物は土師質皿(12~14)、瓦器塊(15~17)、須恵質鉢?底部(18)が図示できた。



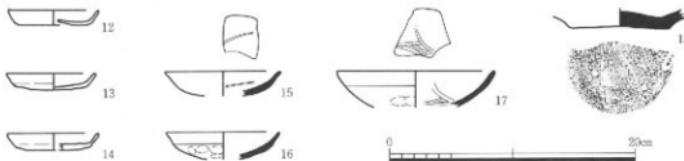
第23図 SK 1 遺構断面
実測図 (1/40)



第26図 SK 3 遺構断面
実測図 (1/40)



第27図 SK 4 遺構断面
実測図 (1/40)



第28図 SK 4出土遺物実測図

〔SK 5〕（第29図）

調査区の上段でSD 3の南側約2mに位置する。土坑の南側は調査区外に広がるが平面形は楕円形を呈すると思われる。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はN-90°-Wを示す。長径3.28m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SK 6〕（第30図）

調査区の上段でSD 2の西側約1mに位置する。平面形は円形を呈している。埋土は灰黄褐色粗砂の一層である。径0.55m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SK 7〕（第31図）

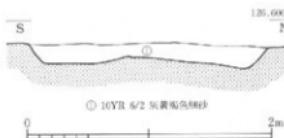
調査区の上段でSD 3の東側約0.5mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はN-4°-Wを示す。長径2.1m、短径0.5m、深さ0.15mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SK 8〕（第32図・33図、図版8）

調査区の上段でSK 4の東側約7mに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色粗砂の一層である。

主軸方向はN-33°-Wを示す。長径2.93m、短径2.5m、深さ0.2mを測る。

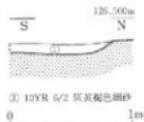


出土遺物は瓦器皿(19)が第32図 SK 8構造断面実測図(1/40)

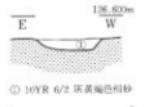
1点図示できた。

〔SK 9〕（第34図・35図、図版4・8・9）

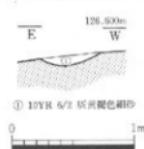
調査区の中段でSK 8の東側約6mに位置する。平面形は不定形な長楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。主軸方向はN-87°-Eを示す。長径3.05m、短径1.15m、深さ0.2mを測る。



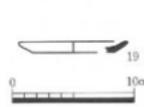
第29図 SK 5構造断面実測図 (1/40)



第30図 SK 6構造断面実測図 (1/40)



第31図 SK 7構造断面実測図 (1/40)



第33図 SK 8出土遺物実測図



第34図 S K 9出土遺物実測図

遺物は土坑の北側
肩部から黒色土器B
類塊（20）、土坑内
からは瓦器塊（21）
と土師質土釜（22）
が図示できた。

〔S K 10〕（第36図）

調査区の中段でS
K 9の北東側約2 m
に位置する。平面形

は不定形な長梢円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じ
り粗砂の一層である。主軸方向はN-6°-Wを示す。長
径2.05m、短径1.25m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔S K 11〕

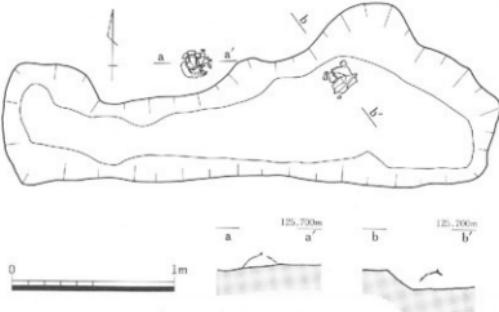
調査区の中段でS K 12の南側に接して検出された。平面
形は梢円形を呈している。埋土はにぶい黄褐色礫混じり粗
砂の一層である。長径0.58m、短径0.43m、深さ0.15mを
測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

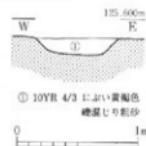
〔S K 12〕（第37図・38図、図版3・8）

調査区の中段でS K 11の北側に接して検出された。平面
形は不定形を呈している。埋土はにぶい黄褐色礫混じり粗
砂の一層である。長径1.71m、短径1.22m、深さ0.12mを
測る。

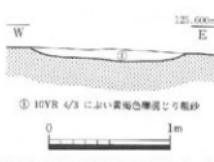
遺物は土師質台付壺（23）が図示できた。



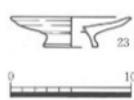
第35図 S K 9遺構実測図（1/30）



第36図 S K 10遺構断面
実測図（1/40）



第37図 S K 12遺構断面実測図（1/40）

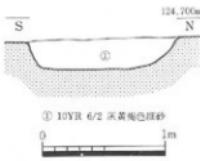


第38図 S K 12出土遺物実測図

[S K13] (第39図・40図、図版9)

調査区の下段で調査区の南端に位置し、南側及び東側は調査区外に広がるようである。平面形は不定形な方形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。検出長軸1.71m、短軸1.44m、深さ0.3mを測る。

遺物は瓦質插鉢(24)が図示できた。



第39図 S K13遺構断面実測図(1/40)

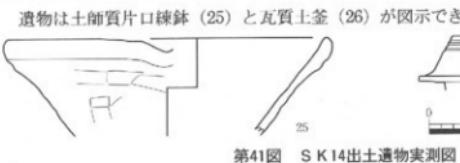
[S K14] (第41図、図版9)

調査区の下段でS K13の北側1mに位置する。平面形は橢円形を呈するようである。主軸方向はN-74°-Wを示す。規模は長径1.14m、短径0.49m、深さ0.2mを測る。

遺物は土質質片口鍊鉢(25)と瓦質土釜(26)が図示できた。



第40図 S K13出土遺物実測図



第41図 S K14出土遺物実測図

[S K15] (第42図)

調査区の下段でS K14の北側4mに位置する。平面形はやや不定形な橢円形を呈するようである。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はN-2°-Wを示す。規模は長径1.57m、短径0.97m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。



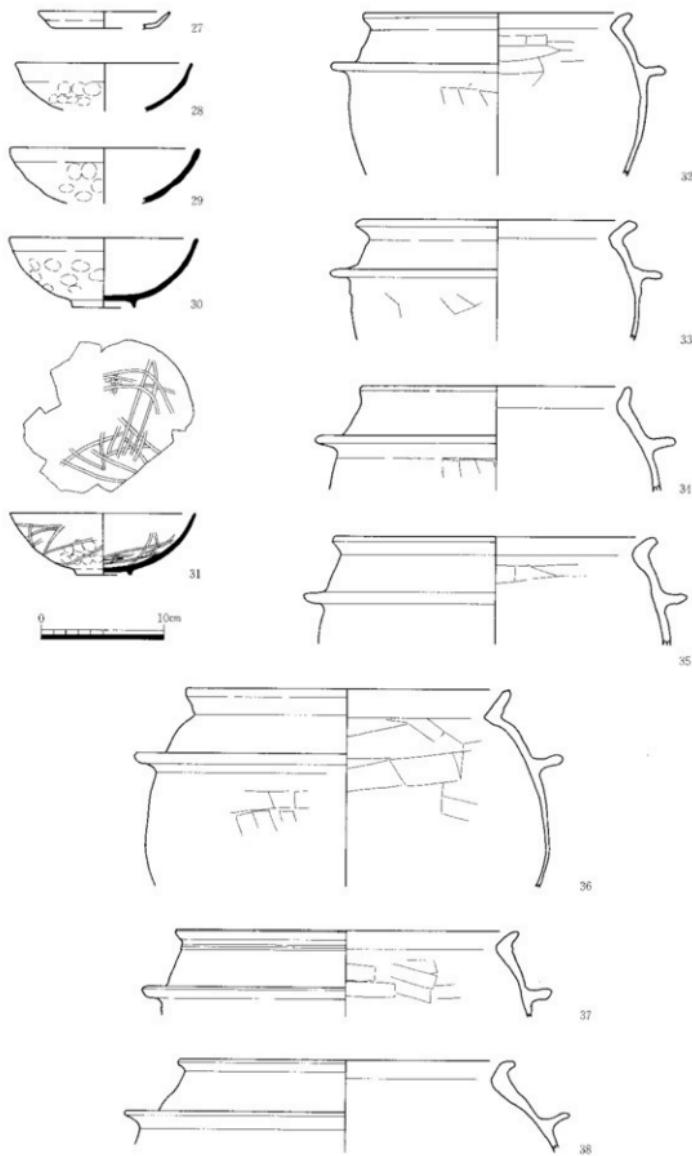
第42図 S K15遺構断面実測図(1/40)

[S K16] (第43図～第45図、図版4・9・10)

調査区の下段でS K15の西側1mに位置し、S B 1と重複する。平面形はやや不定形な台形を呈す



第43図 S K16遺構実測図(1/30)



第44図 SK 16出土遺物実測図（1）

る。内部からは土釜を中心とし土器が一括で出土した。主軸方向はN-36°-Wを示す。長軸2.91m、短軸2.64m、深さ0.13mを測る。

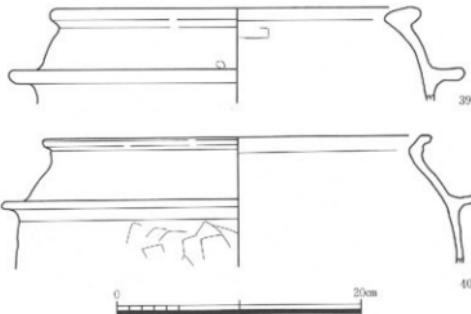
遺物は土師質皿(27)、瓦器塊(28~31)、土師質土釜(32~40)が図示できた。

[SK17] (第46図、

図版10)

調査区の下段でSK15の東北側3mに位置する。平面形はやや不定形な長椭円形を呈する。内部からは土釜を中心に土器が一括で出土した。主軸方向はN-1°-Eを示す。長径1.2m、短径0.54m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿(41)と瓦器皿(42)、更に瓦器塊(43~46)と土師質土釜(47)が図示できた。



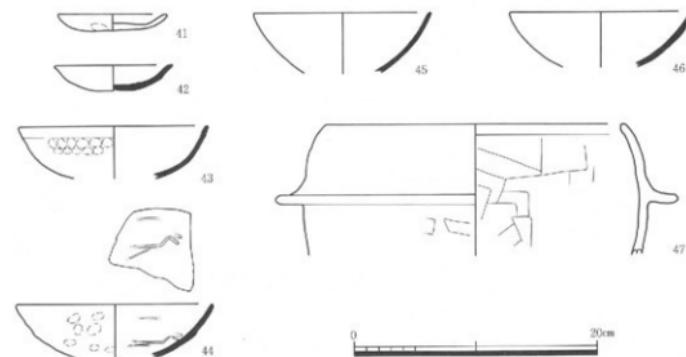
第45図 SK16出土遺物実測図(2)

[SK18] (第47図)

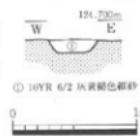
調査区の下段でSK16の西北側3mに位置する。平面形はやや不定形な梨形を呈する。埋上は灰黄褐色細砂の一層である。主軸方向はN-17°-Wを示す。長径0.7m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

Figure 46: Actual measurement diagram of SK17出土文物



第46図 SK17出土遺物実測図



第47図 SK18
遺構断面実測図(1/40)

〔S K19〕（第48図、図版10）

調査区の下段でS K18の東側1mに位置する。平面形は不定形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。土坑の主軸方向はN-70°-Wを示す。長径0.6m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。

遺物は瓦器皿（48）が図示できた。

〔S K20〕（第49図、図版10）

調査区の下段でS K19の北側2mに位置する。平面形は不定形を呈する。南側はS D 7と重複している。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径0.92m、短径0.65m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器塊（49）が図示できた。

〔S K21〕（第50図、図版10）

調査区の下段でS K19の北側2mに位置する。S K20の東側に接し、平面形は不定形を呈する。南側はS D 7と重複している。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径0.83m、短径0.36m、深さ0.4mを測る。

遺物は瓦器塊（50）が図示できた。

〔S K22〕（第51図、図版10）

調査区の下段で

S K21の東側2m

に位置する。平面

形は不定形な梢円

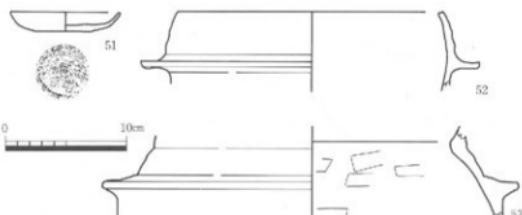
形を呈する。埋土

は灰黄褐色細砂の

一層である。長径

0.5m、短径0.4m、

深さ0.4mを測る。



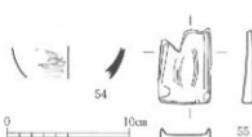
第51図 S K22出土遺物実測図

遺物は土師質の糸切り底を持つ皿（51）、土師質の土釜（52・53）が図示できた。

〔S K23〕（第52図、図版10）

調査区の下段でS K21の北側1mに位置する。平面形は不定形な東西に長い梢円形を呈する。長径2.1m、短径1.16m、深さ0.1mを測る。

遺物は染付け碗（54）、石製の硯（55）が図示できた。



第52図 S K23出土遺物実測図

〔SK24〕（第53図）

調査区の下段でSK20の北側9mに位置する。平面形は不定形な南北にやや幅を持つ長い椭円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径2.44m、短径1.0m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SK25〕（第54図、図版10）

調査区の下段でSK24の北西側6mに位置する。平面形は椭円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂の一層である。長径0.52m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師質壺（56）が図示できた。

〔SK26〕（第55図）

調査区の下段でSK25の北東側5mに位置しSB3と重複する。平面形は南辺が不定形な長方形の大型の土坑である。埋土は褐灰色粗砂の一層である。長軸6.88m、短軸3.5m、深さ0.5mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔SK27〕（第56図）

調査区の下段でSK26の北側1.5mに位置する。平面形は西辺が不定形な長方形の大型の土坑である。埋土は褐灰色粗砂の一層である。長軸4.83m、短軸4m、深さ0.12mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

(4) 遺物出土ピット

〔SP1〕（第57図、図版10）

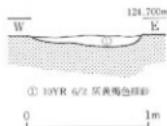
調査区の上段でSK2の北側約2mに位置する。平面形は椭円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.28m、短径0.2m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿（57）が図示できた。

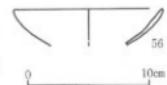
〔SP2〕（第58図・59図、図版11）

調査区の上段でSP1の南東側約1mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.2m、深さ0.2mを測る。

遺物は埋土上位から瓦器壺（58）が出土した。



第53図 SK24遺構断面
実測図 (1/40)



第54図 SK25出土遺物
実測図



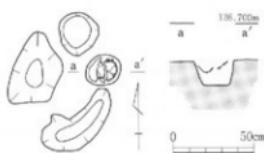
第55図 SK26遺構断面実測図 (1/40)



第56図 SK27遺構断面実測図 (1/40)



第57図 SP1出土
遺物実測図



第58図 SP2遺構実測図 (1/30)

〔S P 3〕（第60図、図版5・11）

調査区の上段でS K 5の北側約5mに位置する。平面形は椭円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.4m、短径0.37m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師質皿（59）が図示できた。

〔S P 4〕

調査区の中段でS K 9の北側約2mに位置する。平面形は椭円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.4m、短径0.3m、深さ0.3mを測る。

遺物はS P 13から出土した黒色土器A類塊と接合した。

〔S P 5〕（第61図、図版11）

調査区の下段でS K 14の北側約1mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3m、深さ0.3mを測る。

遺物は瓦器皿（60）が図示できた。

〔S P 6〕（第62図、図版10）

調査区の下段でS P 5の北側約3mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.53m、短径0.49m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質土釜（61）が出土した。



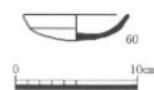
第62図 S P 6出土遺物実測図



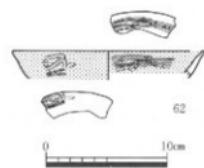
第59図 S P 2出土遺物実測図



第60図 S P 3出土遺物実測図



第61図 S P 5出土遺物実測図



第63図 S P 7出土遺物実測図

〔S P 7〕（第63図、図版10）

調査区の下段でS K 16の西側約2mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3m、深さ0.3mを測る。

遺物は黒色土器B類塊（62）が出土した。

〔S P 8〕（第64図、図版10）

調査区の下段でS K 15の北側約3mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.26m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師質皿（63）が出土した。

〔S P 9〕（第65図、図版10）

調査区の下段でS P 8の東側約0.5mに位置する。平面形は角丸方形を呈する。埋土は



第64図 S P 8出土遺物実測図

灰黄色粗砂の一層である。一辺0.3m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師質皿（64）と瓦器塊（65）が出土した。

〔S P10〕（第66図、図版10）

調査区の下段でS P 8の北側約0.5mに位置する。

平面形は楕円形を呈する。

埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.19m、短径0.1m、深さ0.02mを測る。

遺物は土師質皿（66・68）と瓦器皿（67）、瓦器塊（69）が出土した。

〔S P11〕（第67図、図版10）

調査区の下段でS K22の西側に接して位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.2m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質土釜（70）が出土した。

〔S P12〕（第68図、図版10）

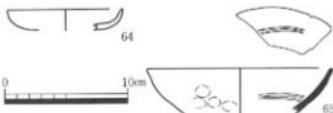
調査区の下段でS K20の北側に接して位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.23m、短径0.2m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器塊（71）が出土した。

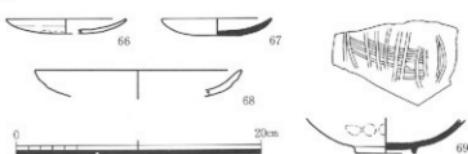
〔S P13〕（第69図・70図、図版11）

調査区の下段でS D 6の西側約1mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。掘方有り、掘方径0.29m、柱穴径0.15m、深さ0.2mを測る。

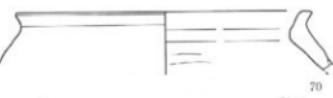
遺物はS P 4から出土した黒色土器A類塊と接合した（72）の他に（73・74）が出土した。



第65図 S P 9出土遺物実測図



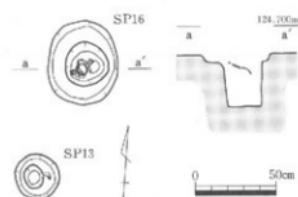
第66図 S P 10出土遺物実測図



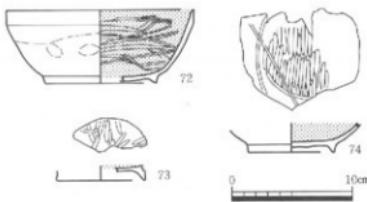
第67図 S P 11出土遺物実測図



第68図 S P 12出土遺物実測図



第69図 S P 13 + 16構造実測図 (1/30)



第70図 S P 13出土遺物実測図

〔S P14〕

調査区の下段でS P13の東側約1mに位置する。平面形は梢円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.24m、短径0.18m、深さ0.2mを測る。

遺物は約50gの鉄滓が出土した。

〔S P15〕（第71図、図版11）

調査区の下段でS P14の北側約1mに位置する。平面形は梢円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.38m、短径0.26m、深さ0.2mを測る。

遺物は黒色土器B類塊（75）が出土した。

〔S P16〕（第69図・72図、図版11）

調査区の下段でS P13の北側約0.4mに位置する。平面形は梢円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.52m、短径0.43m、深さ0.3mを測る。

遺物は黒色土器A類塊（76）が出土した。

〔S P17〕（第73図、図版5・11）

調査区の下段でS P16の北東側約3mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3m、深さ0.5mを測る。

遺物は土師質塊（77）が出土した。

〔S P18〕（第74図、図版11）

調査区の下段でS P16の北東側約3mに位置する。平面形は梢円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.42m、短径0.33m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿（78）が出土した。

〔S P19〕（第75図、図版11）

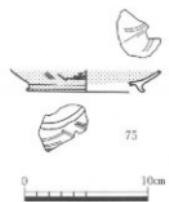
調査区の下段でS P18の北西側約1mに位置する。平面形は長梢円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.4m、短径0.2m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質塊（79）が出土した。

〔S P20〕（第76図、図版11）

調査区の下段でS B 3の南側約2mに位置する。平面形は梢円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。長径0.3m、短径0.2m、深さ0.4mを測る。

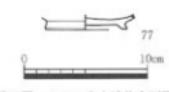
遺物は土師質皿（80）、土師質塊（81）が出土した。



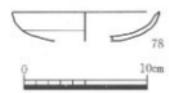
第71図 S P15出土遺物実測図



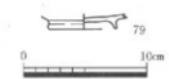
第72図 S P16出土遺物実測図



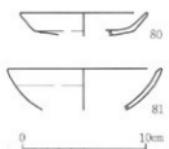
第73図 S P17出土遺物実測図



第74図 S P18出土遺物実測図



第75図 S P19出土遺物実測図

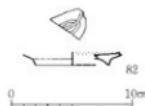


第76図 S P20出土遺物実測図

「S P21」（第77図、図版11）

調査区の下段でS B 3 の南側梁行中央に位置する。平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色粗砂の一層である。径0.3m、深さ0.4mを測る。このピットはその位置からS B 3 を構成する柱穴の可能性が高い。

遺物は黒色土器A類塊(82)が出土した。



第77図 S P21出土遺物
実測図

(5) 包含層（第78図～81図、図版11～14）

包含層からは弥生土器・須恵器・土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・瓦質土器・輸入陶磁器・国産陶器が出土している。また砥石・サヌカイト製打製石器や鉄製釘・不明鉄製品が出土している。

〔弥生土器〕

櫛描き廉状文がみられる中期の壺体部(169)が出上している。胎土は生駒山西麓のもとのである。

〔須恵器〕

壺身(85・86)と高环脚部(87)、壺口縁部(129)・体部(130)、甕口縁部(153)・底部(132)がある。(88)については脚部か蓋の口縁部かの判断はできなかった。环身および高环脚部、壺体部は陶邑編年I～4に該当する。

〔土師器〕

高环の脚部が2点出土した。(84)は布留式土器、(83)は外面が面取りされた奈良時代の高环である。

〔黒色土器〕

黒色土器は3点(122～124)図示できた。全て内黒のA類塊で(122・124)は口縁部端部内面が段を成す。

〔土師質土器〕

皿(89～104)と土釜(136・137・144～148)、甕(149～152)、播鉢(128)が見られる。皿は径6cmから8cmのものがほとんどで(104)だけが径11.4cmを測った。土釜は全て口縁部が短く「くの字」に外反し端部は丸くおさめている。甕は口縁部が短く外反する。

〔須恵質土器〕

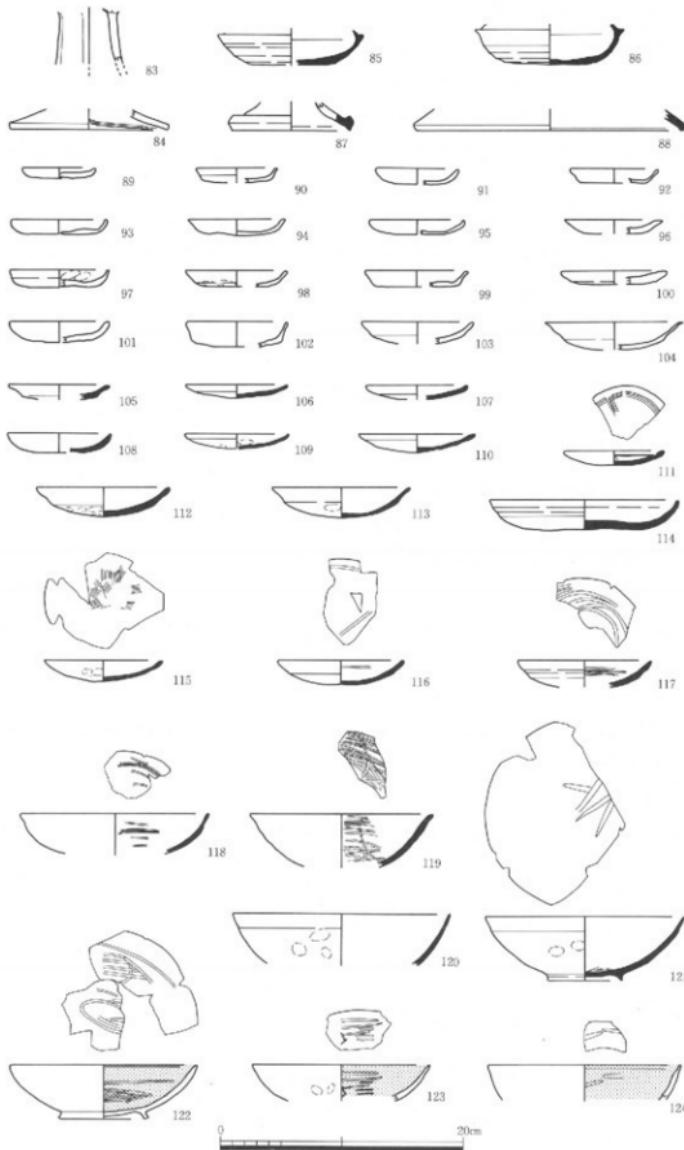
東播系と思われる練鉢の口縁部(125～127)と底部(131)とがある。

〔瓦器〕

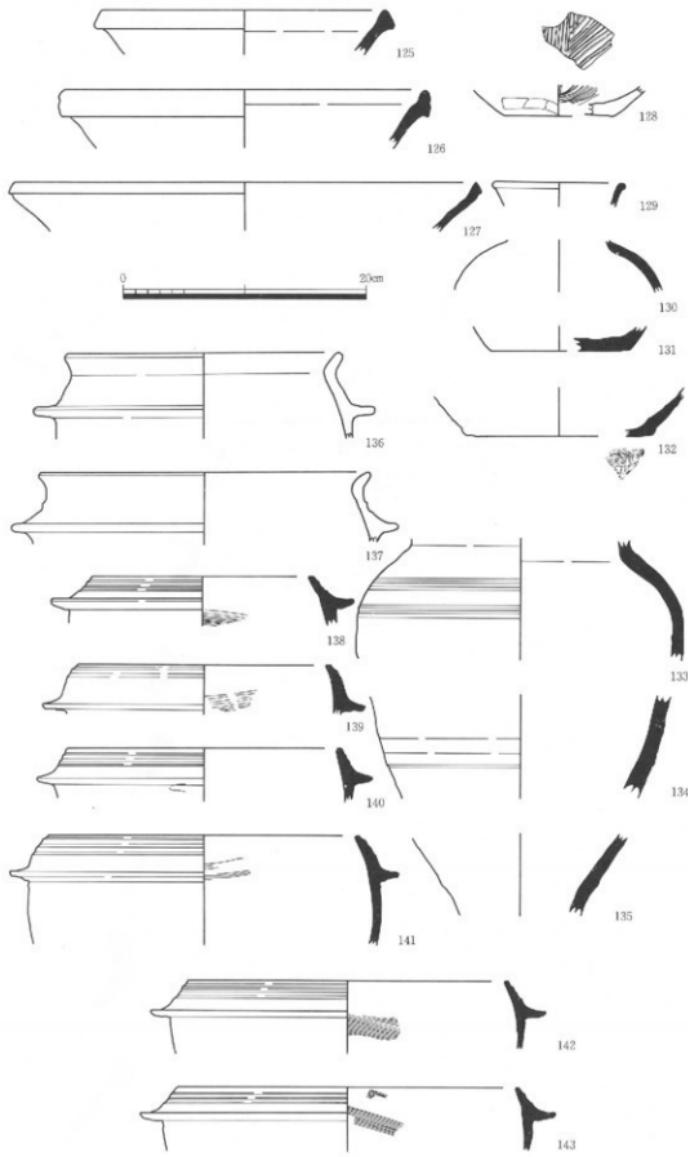
塊は高台を有する(118～121)と消失している(116・117)とが見られる。皿は口径7.3cm、器高1.3cmで口縁部が外弯する(105)と口径8.5cm、器高1.5cmで口縁部が内弯する(108)、さらに口径15.5cm、器高2.5cmで口縁部が内弯するやや大型の皿(114)がある。

〔瓦質土器〕

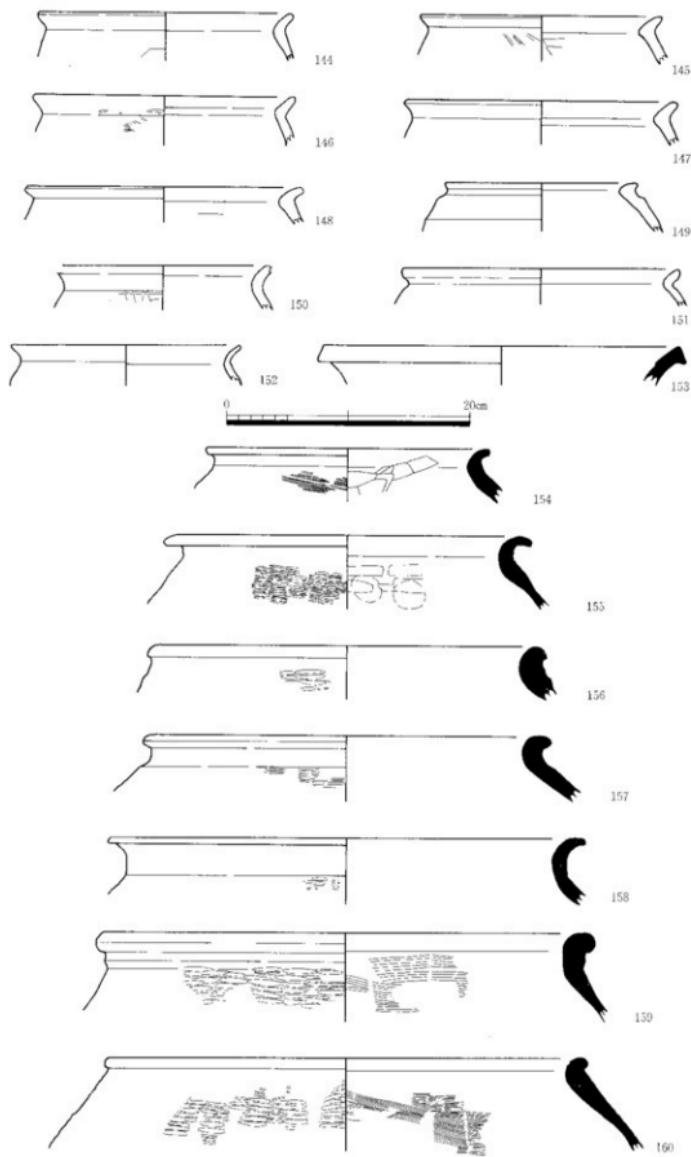
皿と土釜と甕が見られる。



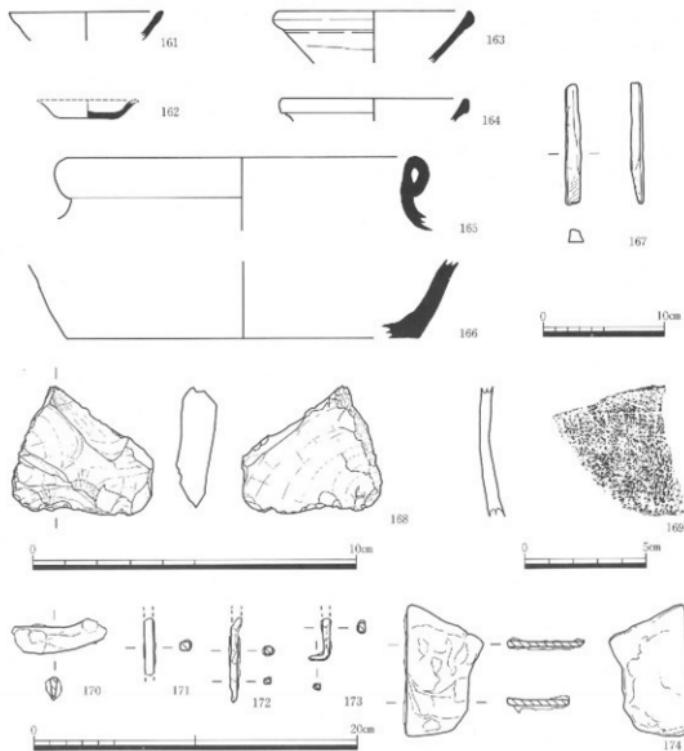
第78図 第1調査区包含層出土遺物実測図（1）



第79図 第1調査区包含層出土遺物実測図（2）



第80図 第1調査区包含層出土遺物実測図(3)



第81図 第1調査区包含層出土遺物実測図（4）

皿は口径8.5cm、器高1.2cmを測る天野山金剛寺編年9類の（106・107・109・111）、口径9.5cm、器高1.5cmを測る天野山金剛寺編年8類の（110・115）、口径11cm、器高2.5cmを測る天野山金剛寺編年2類の（112・113）とに大別できる。

土釜（138～143）はいずれも内傾する口縁部をもち、体部外面ヘラ削り、内面ハケ目が見られる。

甕は口縁部が大きく外弯する（154・155・158）と玉縁状を呈する（156・157・159・160）に大別できる。いずれも外面はタタキが施されている。

〔陶器〕

備前甕の口縁部（165）と底部（166）、そして4条の平行沈線の文様帯が2条施された壺の肩部（133）がある。また、瀬戸では瓶子の体部が2点（134・135）出土している。

〔輸入陶磁器〕

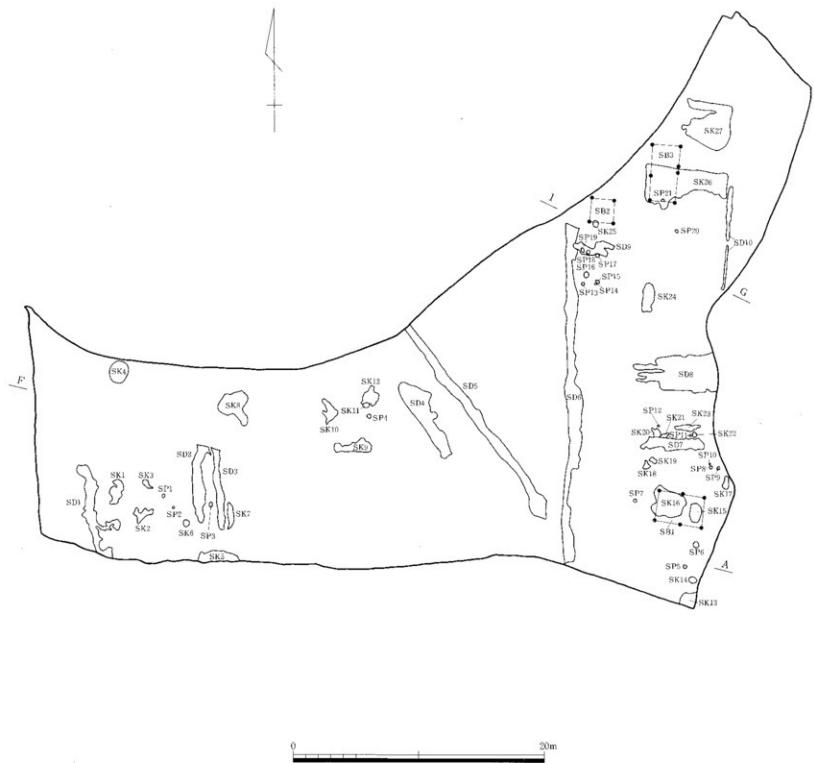
白磁が4点図示できた。（161・162）は皿で、（162）は口禿の口縁を持つもので皿皿

類に分類できる。(163・164)は玉縁をもつもので碗IV類に分類される。

〔その他〕

石製品としては(167)の砥石がある。またサヌカイト製の刃器が1点(168)図示できた。

鉄器では刀子の一部と思われる(170)や釘(171~173)、さらに農具の一部と思われる(174)が図示できた。

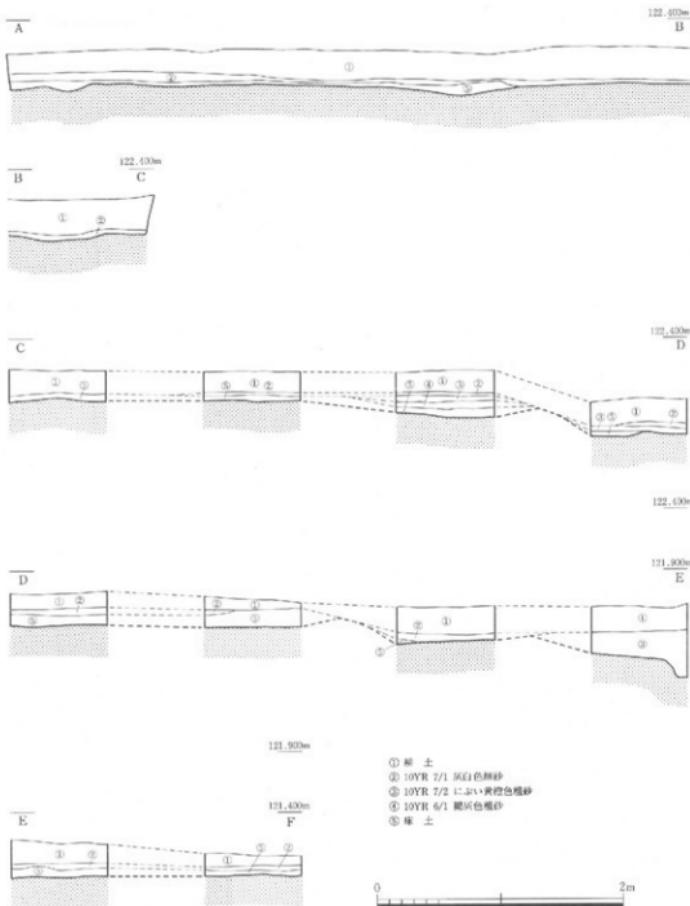


第82図 第1調査区造構配図 (1 / 300)

第2節 第2調査区

1 概略

本調査区は第1調査区の北側で、小谷を挟んで約170m離れている。標高は約120mを測る。調査区は低位段丘を石川に沿って幅約9m、長さ約80mで設定した。調査面積は約750m²である。



第83図 第2調査区土層断面実測図 (1/40)

2 遺構と遺物

(1) 挖立柱建物

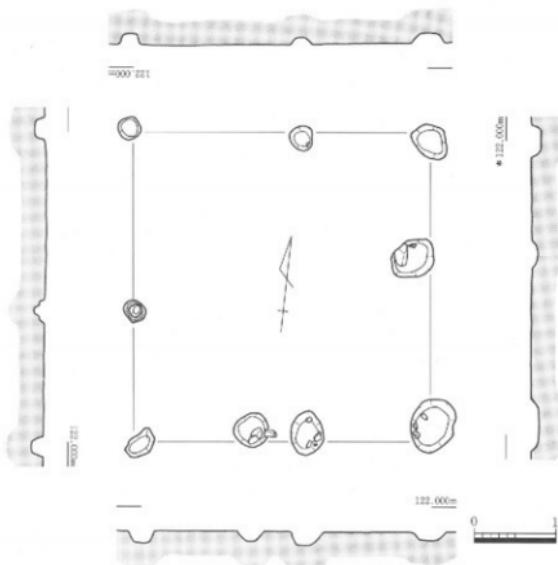
[S B 4] (第84図・85図、図版7・14)

調査区の南西側でS B 5と重複する。桁行2間(3.8m)×梁行2間(3.65m)の建物である。柱間は桁行2.4m・1.5m、梁行2.06m・1.6m。桁行方向はN-6°-Wを示す。柱穴の規模は一定でなく最大径0.6mから最小径0.2mで、深さは0.3mを測る。

遺物は柱穴から土師質皿(175～177)が出土した。



第84図 S B 4 出土遺物実測図



第85図 S B 4 遺構実測図 (1/60)

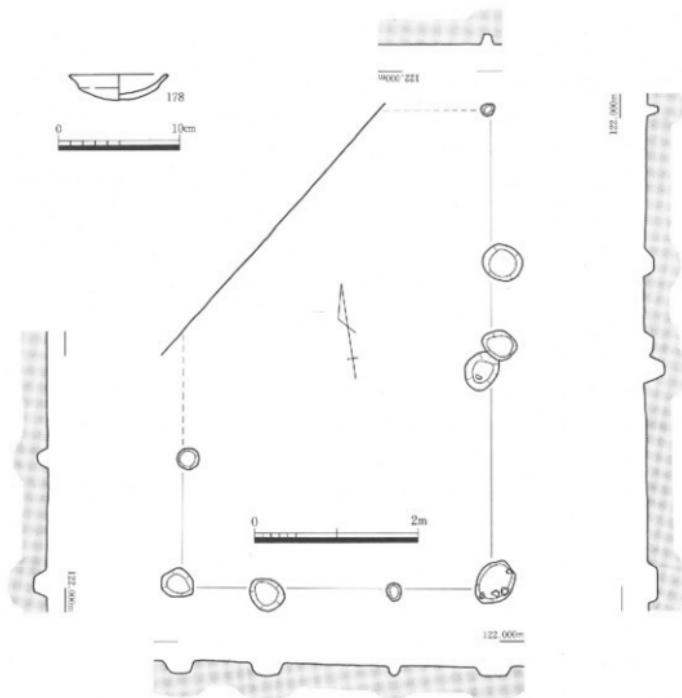
[S B 5] (第86図、図版7・14)

調査区の南西側でS B 4と重複する。桁行3間(5.9m)×梁行3間(3.75m)の建物である。柱間は桁行2.6m・1.3m・2m、梁行1m・1.6m・1.15m。桁行方向はN-8°-Eを示す。柱穴の規模は一定でなく最大径0.6mから最小径0.2mで、深さは0.15mを測る。

遺物は柱穴から土師質皿(178)が出土した。

[S B 6] (第87図・88図、図版7・14)

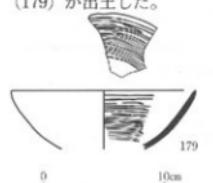
調査区の中央部に位置する。桁行1間(2.4m)×梁行1間(2.13m)の建物である。



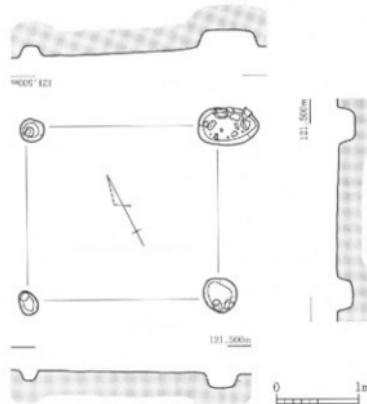
第86図 SB 5 遺構実測図 (1/60) 及び出土遺物実測図

桁行方向はN-63°-Wを示す。柱穴の規模は一定でなく最大径0.3mから最小径0.2mで、深さは0.15mを測る。

遺物は柱穴から瓦器塊(179)が出土した。



第87図 SB 6 出土遺物実測図



第88図 SB 6 遺構実測図 (1/60)

(2) 溝

〔S D11〕 (第89図、図版14)

調査区の南西側の南端で検出された。全容は判明しないが東西に走る溝のようである。南側肩部は調査区外である。埋土は灰黄色粗砂の一層である。検出長7.14m、検出幅1.68m、深さ0.42mを測る。

遺物は土師質皿 (180・181) が図示できた。

〔S D12〕 (図版7)

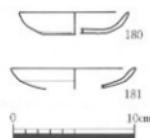
調査区の中央部、S B 6 の東側5mに位置する。溝は水田の造成時に大部分削平され、西側肩の一部が残存しているだけである。埋土は灰黄色粗砂の一層である。検出長7m、検出幅1.08m、深さ0.18mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔S D13〕 (第90図、図版14)

調査区の北東側、S D12の東側9mに位置する。大部分は調査区外で全容は判明しない。西側肩の一部が残存しているだけである。埋土は灰黄色粗砂の一層である。検出長6m、検出幅0.98m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿 (182) が図示できた。



第89図 S D11出土
遺物実測図

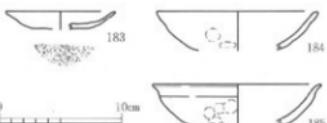


第90図 S D13出土
遺物実測図

(3) 土坑

〔S K28〕 (第91図、図版15)

調査区の南西側、S B 5 の西側3mに位置する。平面形は不定形な椭円形を呈する。長径0.66m、短径0.48m、深さ0.11mを測る。

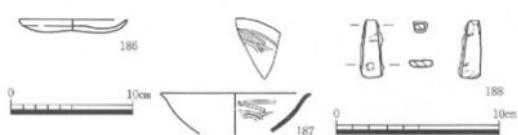


第91図 S K28出土遺物実測図

遺物は糸切り底の土師質皿 (183)、土師質壺 (184・185) が図示できた。

〔S K29〕 (第92図、図版15)

調査区の南西側、S B 4 の東側1mに位置する。平面形は不定形な椭円形を呈する。検出長径1.6m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。



第92図 S K29出土遺物実測図

m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。

遺物は土師質皿 (186)、瓦器塊 (187)、不明小型鉄製品 (188) が図示できた。

〔S K30〕 (第93図、図版15)

調査区の南西側、S B 4 の北東側11mに位置する。平面形はそのほとんどが調査区外の

為不明である。検出長軸1.08m、短軸0.9m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器塊（189）が実測できた。

〔S K31〕（第94図、図版15）

調査区の南西側、S K30の北側に隣接する。平面形は梢円形を呈する。主軸方向はN-59°-Wを示す。長径1.64m、短径1.22m、深さ0.18mを測る。

遺物は土師質皿（190）が図示できた。

〔S K32〕（第95図、図版15）

調査区の北東側、S B 6の北東側8mに位置する。平面形は不定形な梢円形を呈する。主軸方向はN-63°-Eを示す。長径は0.66m、短径0.46m、深さ0.15mを測る。

遺物は瓦器塊（191）が図示できた。

(4) 遺物出土ピット

〔S P22〕（第96図、図版14）

調査区の南西側でS K28の北側約1mに位置する。平面形は円形を呈する。径0.25m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿（192）が出土した。

〔S P23〕（第97図、図版14）

調査区の南西側でS K30の底部から検出された。半分は調査区外に広がる。平面形は梢円形を呈する。検出長径0.4m、短径0.3m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿（193）が出土した。

〔S P24〕（第98図、図版14）

調査区の中央でS D12の西側約1mに位置する。平面形は梢円形を呈する。長径0.35m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器塊（194）が出土した。

(5) 包含層（第99図、図版15・16）

包含層からは黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・瓦質土器・輸入陶磁器が出土している。また瓦・土製品・鉄製釘・不明鉄製品が出土している。

〔黒色土器〕

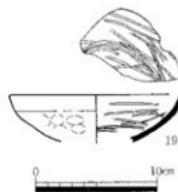
黒色土器は1点（195）図示できた。B類塊である。



第93図 S K30出土遺物実測図



第94図 S K31出土遺物実測図



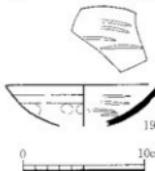
第95図 S K32出土遺物実測図



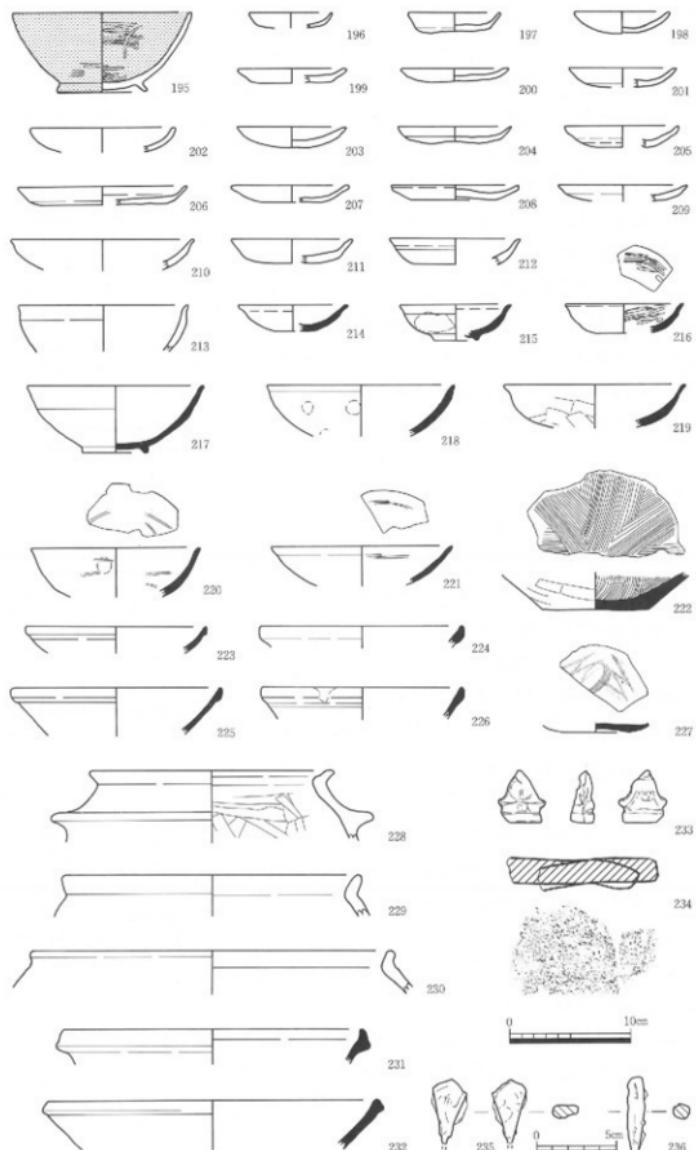
第96図 S P22出土遺物実測図



第97図 S P23出土遺物実測図



第98図 S P24出土遺物実測図



第99図 第2調査区包含層出土遺物実測図

〔土師質土器〕

皿（196～209・211・212）と壺（210）、塊（213）、土釜（228～230）が見られる。皿はその大きさから径6.8cmから7.4cmのものが3点（196～198）、径8.8cmのものが4点（199～201・203）、径9.6cmのものが3点（204・205・207）、径10cmのものが1点（211）、径10.6cmのものが3点（208・209・212）、径12cm以上のものが2点（202・206）見られる。また、口縁部の形態から、底部から外弯気味に短く屈曲する（197・199・206・211）と、底部からやや内弯気味にのびるものとに分けられるようである。土釜は全て口縁部が短く外反し端部は丸くおさめている。

〔須恵質土器〕

東播系と思われる練鉢の口縁部が2点（231・232）図示できた。

〔瓦器〕

塊は高台を有する（217～221）が見られる。更に小型塊（215）がある。皿は2点（214・216）図示できた。

〔瓦質土器〕

插鉢（222）の底部が実測できた。

〔輸入陶磁器〕

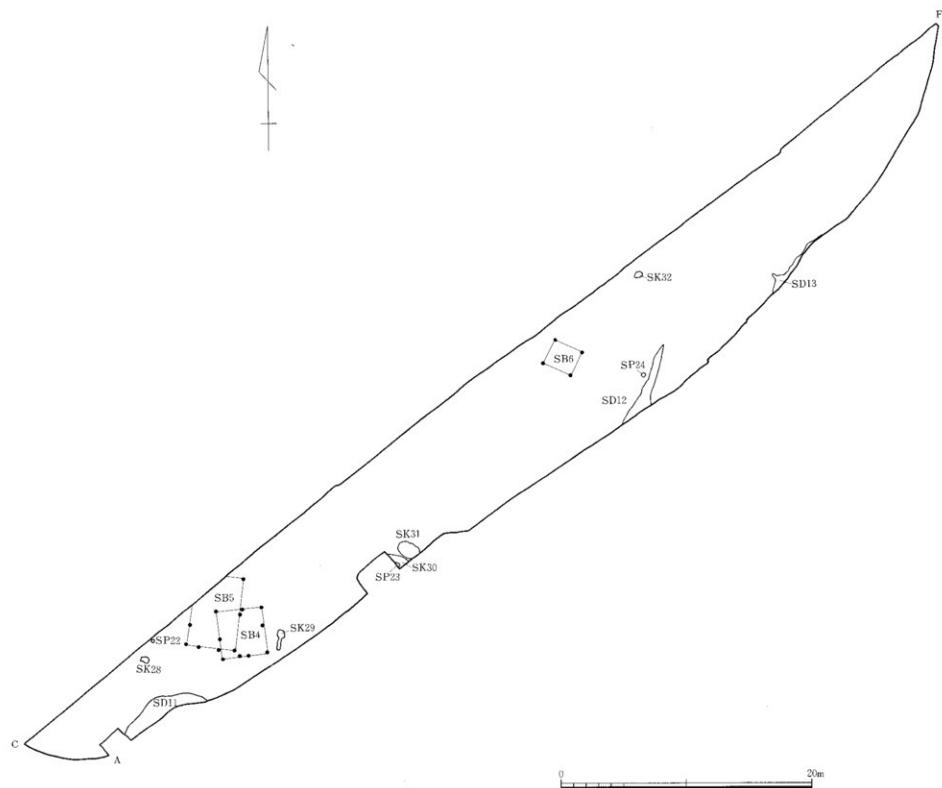
白磁碗が4点と青磁皿1点が図示できた。白磁碗（223～226）は玉縁をもつもので碗Ⅳ類に分類されるものである。

青磁皿（227）は同安窯系で底部に櫛により施文されている。

〔その他〕

土製品としては（233）の菅原天神の人形がある。また、内面に布目が残る丸瓦の破片が1点（234）図示できた。

鉄器では鎌の一部と思われる（235）や釘（236）が図示できた。



第100図 第2調査区遺構配置図 (1/300)

第3章　まとめ

第1節 第1調査区

1 遺構

調査区の下段の遺構は規則性を持っていた。石川寄りで検出された掘立柱建物3棟分はいずれもほぼ北を示す同一方向を示していた。また、下段のSD6やSD10やその他の溝も建物と同一方向を示しており、なんらかの規制を受けている。土坑はSK16をはじめ土器を多量に出土した。

しかし、上段・中段の遺構は規則性がなく、建物を復元することもできなかった。とくに中段はSD5とSD6との間の遺構が希薄である。このため遺構の集中が北西側に偏っていた。

2 遺物

遺構・包含層からの出土土器を合わせて分類してみると55.3%が土師質土器そして瓦器22.2%、瓦質土器8%、須恵器5.3%、黒色土器4.8%、国産陶磁器1.8%、その他の順に出土している。しかし、遺構になると土師質土器、瓦器、黒色土器の比率が少し上がり、ある程度の時期的な特徴を示している。

遺構出土の土器について少し記述すると、まず黒色土器はA類塊とB類塊がそれぞれ出土している。口縁部まで残存しているものは少なかつた。A類塊ではSP13の(72)が口径に対して高台径が大きく、体部から口縁部にかけて直線的にのびている。それに比べSB3の(3)は体部が内凸気味に外傾し端部内面が段をなしている。B類塊ではSB3の(2)が口径10cmとやや小型である。またSK9の(1)が口径10cmとやや大型である。またSK9の(1)

	遺構	包・表・試	Total
土師器	3	7	10
須恵器	14	52	66
黒色土器	27	33	60
土師質土器	275	409	684
瓦器	123	152	275
瓦質土器	34	65	99
須恵質土器		9	9
陶質土器			
輸入陶磁器		9	9
国産陶磁器	2	21	23
瓦			
合計	478	757	1235



第2表 第1調査区出土遺物の分類

(20) はやや内湾気味の体部が外傾し、口縁部外面はヨコナデ、高台は「ハの字」状に広がっている。このことから S K 13 の (72) は古式の様相を呈し、S K 9 の (20) はより瓦器塊に近い形態を示している。

瓦器塊は S K 9 の黒色土器 B 類塊 (20) と共に伴した (21)、S K 20 の (49) は他の土坑やピット出土の瓦器塊に比べ古式を呈している。尾上編年の I の段階に相当し、他は II-1 ないし II-2 の時期と考えられる。

土師質土器では瓦器塊と共に伴する土釜はすべて菅原編年の河内 B 1 型である。また、土師質皿では S K 22 の (51) は底部外面は糸切り底である。

第2節 第2調査区

1 遺構

第1調査区に比べ遺構は少なく、建物は3棟復元できたが他の溝や土坑は希薄であった。建物では S B 5 が1棟だけ第1調査区の3棟の建物と主軸を同一にするようである。

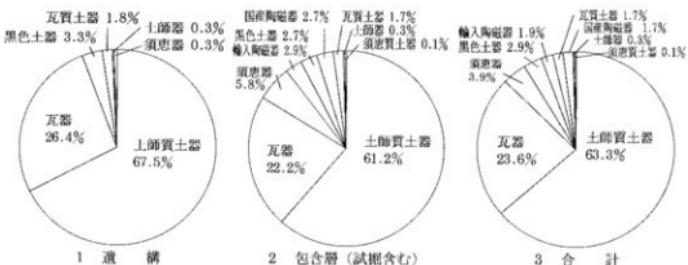
2 遺物

第1調査区と同様に遺構・包含層からの出土土器を合わせて分類してみると、63.3%が土師質土器そして瓦器23.6%、須恵器3.9%、黒色土器2.9%、輸入陶磁器1.9%、その他順に出土している。しかし、遺構になると土師質土器67.5%、瓦器26.4%、黒色土器3.3%、そしてその他瓦質土器、土師器、須恵器の順になっている。これは、第1調査区の遺構の出土比率と相違し、土師質土器の比率が高いという特徴を示している。

遺構からの土器を少し見てみると、瓦器塊は S B 6 の (179) が古く II-2 の形態を示す。その他では S K 32 の (191) が III-2 、 S K 29 の (187) ・ S K 30 の (189) ・ S P 24 の (194) が IV-3 を示す。

皿は S K 28 の (183) ・ S P 22 の (192) ・ S P 23 の (193) のように底部から内湾気味に口縁部にいたる

	遺構	包・試	Total
土師器	1	2	3
須恵器	1	30	31
黒色土器	9	14	23
土師質土器	179	316	495
瓦器	70	115	185
瓦質土器	5	9	14
須恵質土器		1	1
陶質土器			
輸入陶磁器		15	15
国産陶磁器		14	14
瓦			
合計	265	516	781



第3表 第2調査区出土遺物の分類

ものと、S K29の（186）のように口縁部が短く外上方にのびるもの、更にS K31の（190）のように所謂「て」の字状の口縁をもつものとがあった。（183）は底部が糸切り底である。

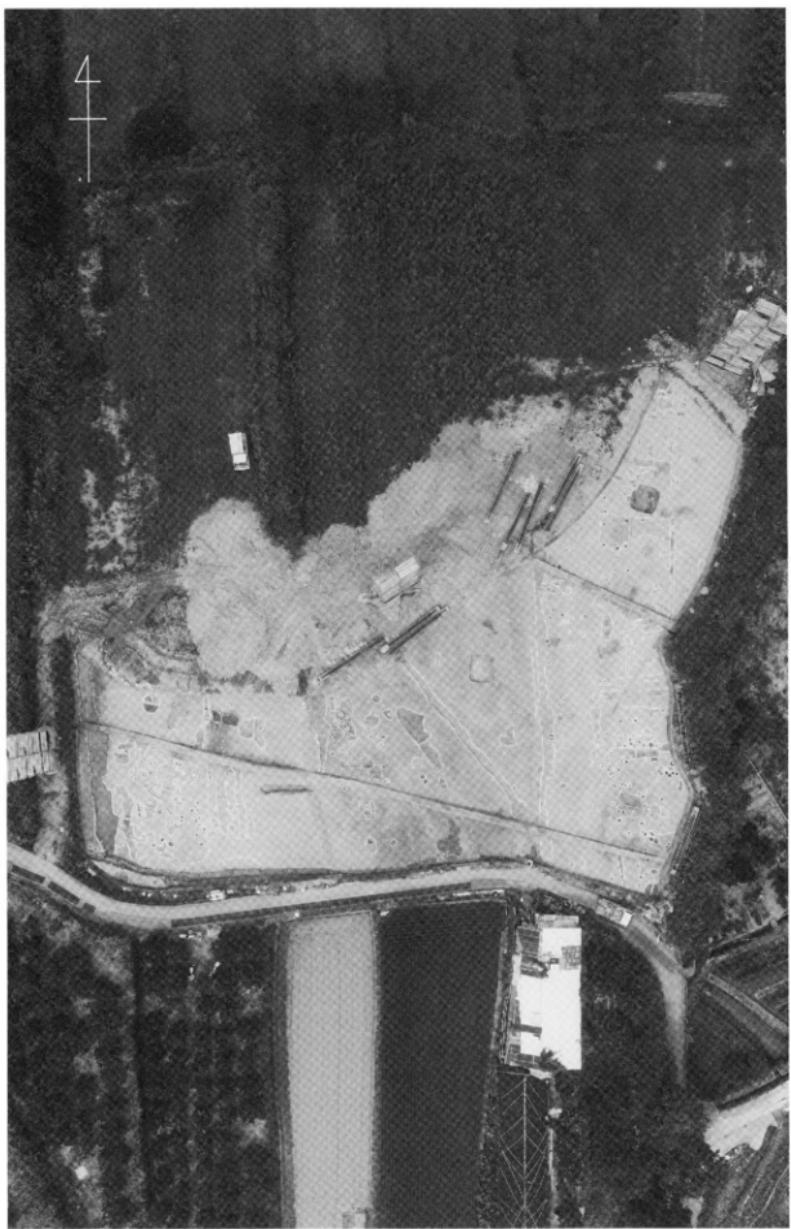
坏はS K28の（184・185）の2点だけであるが、口縁部はヨコナデによって体部との境をなしている。

第3節 最後に

第1調査区の遺構の中心となる時期が瓦器の編年のII-1を前後する時期で、実年代としては12世紀代と考えられる。もちろん、S K14やS K23のように時期の下るものもあるので時期幅は認められる。また、第2調査区はやや遺構ごとに相違するようでは瓦器の編年から12世紀から14世紀の実年代が考えられる。

この遺跡の立地するところは石川の低位段丘面で、地山となる層序が軟質なシルトから疊であることから決して条件のよい場所とは考えがたい。また、対岸の野間里遺跡のように周囲に水田として可能な小冲積地ではなく、集落立地としては条件の悪いところである。しかし、この時代になって、水田開発が水持ちの悪い低位段丘面に及んできたことを示しているとも考えられる。

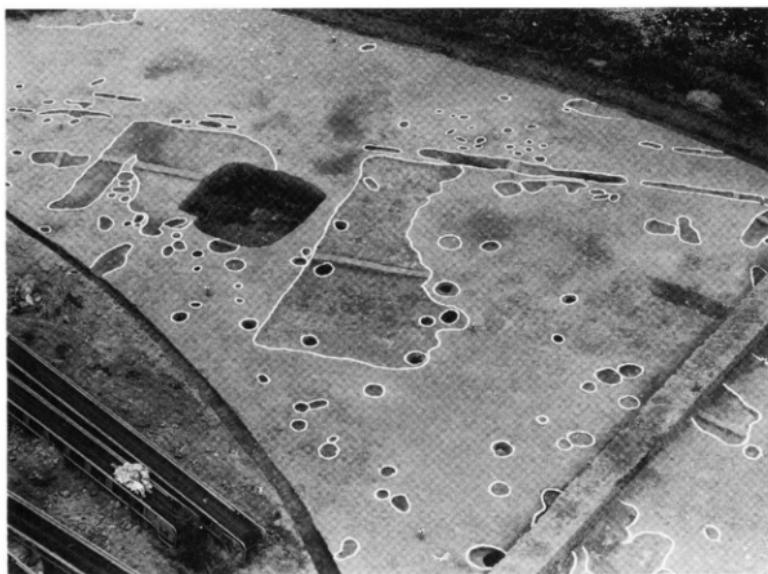
図 版



調査区全景



調査区全景（西から）



S B 3 - SK30（西から）



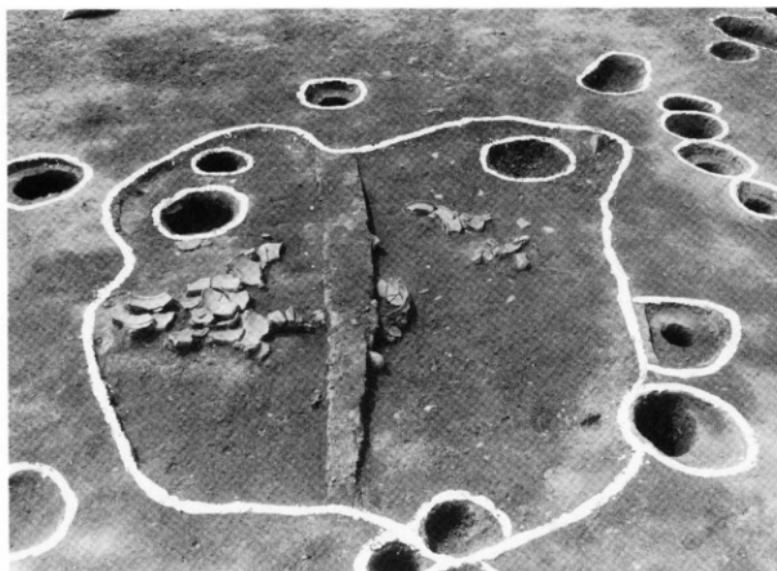
SD 4・SD 5・SD 6 (東から)



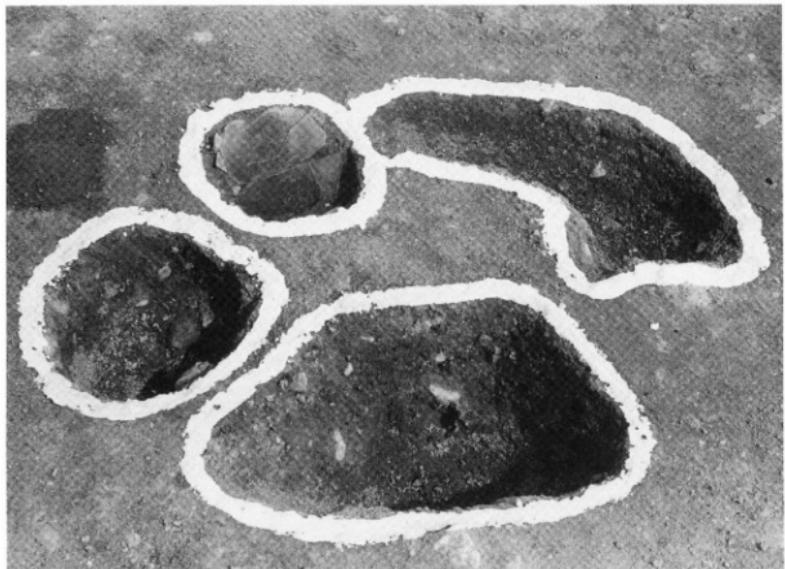
SK 12 (西北から)



S K 9 (北から)



S K16 (東から)



S P 3 (西から)



S P 17 (北から)

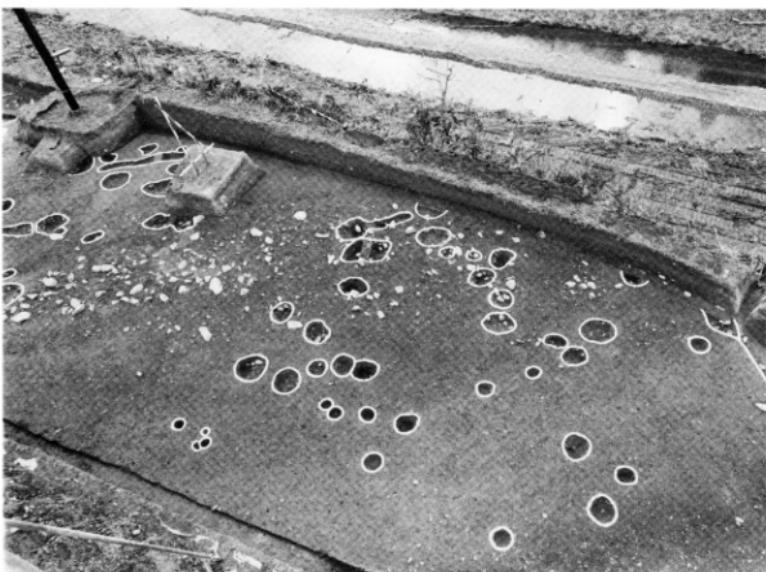
図版6 遺構 第2調査区



調査区全景



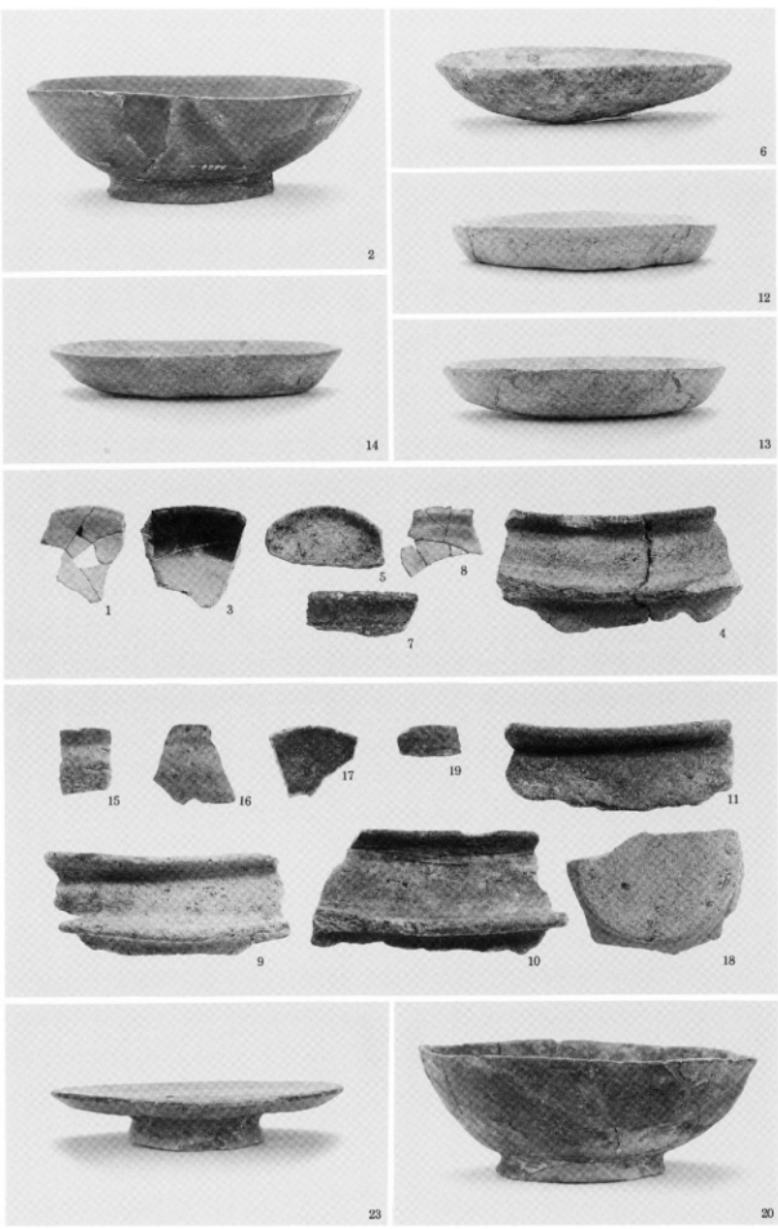
調査区全景（北東から）



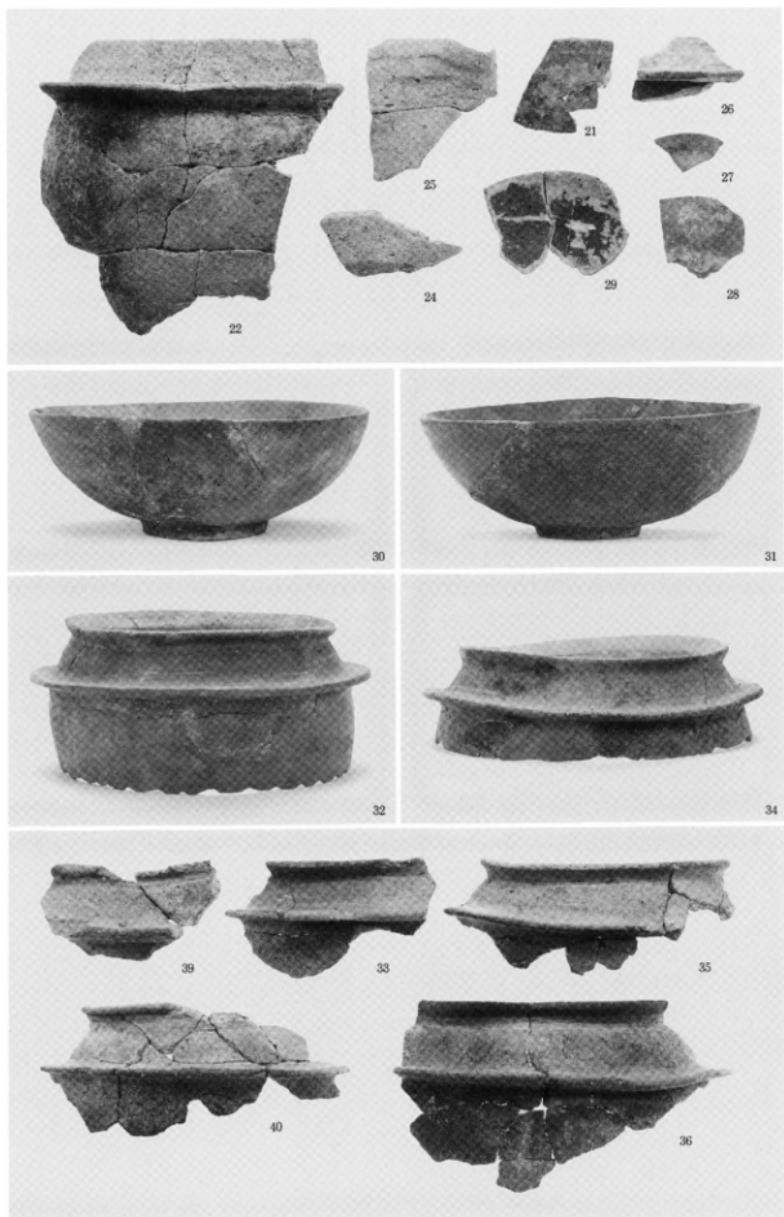
S B 4 • S B 5 (西から)



S B 6 • S D12 (北から)



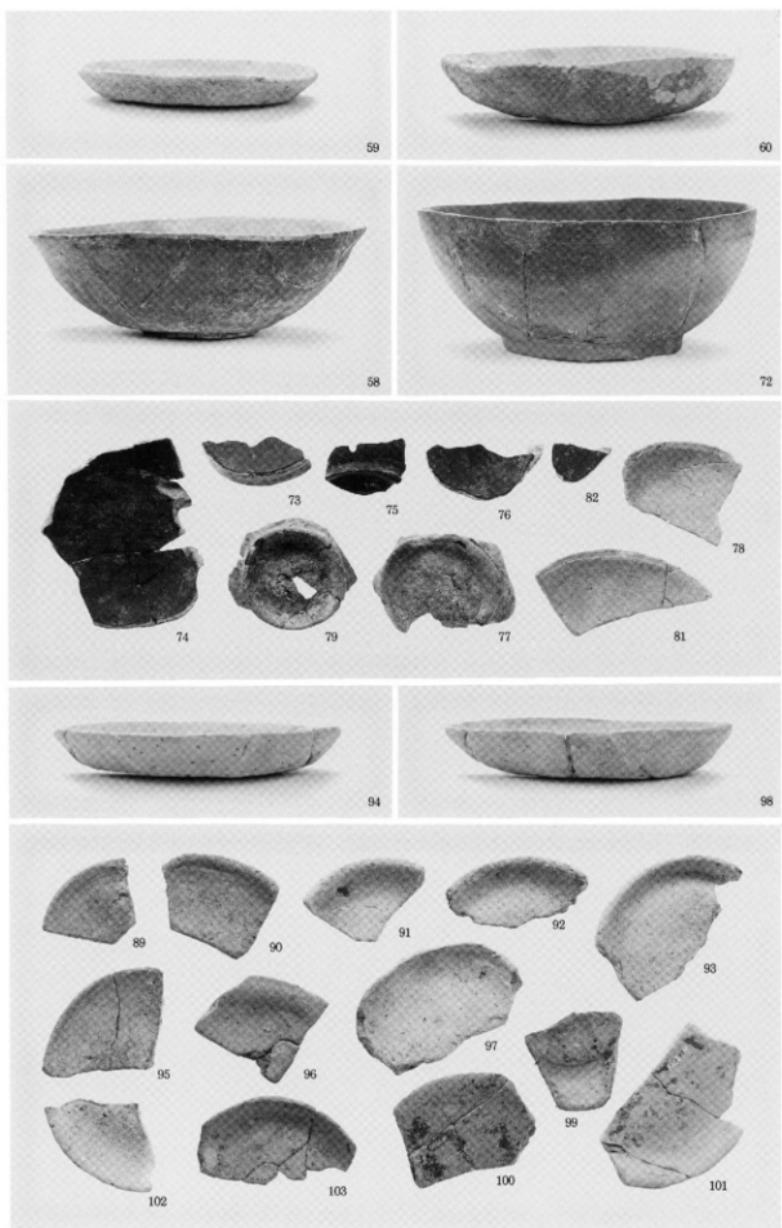
SB 2 (1)、SB 3 (2・3)、SD 2 (4)、SD 4 (5・6)、SD 8 (7)、SD 9 (8)、SK 2 (9~11)、
SK 4 (12~18)、SK 8 (19)、SK 9 (20)、SK 12 (23)



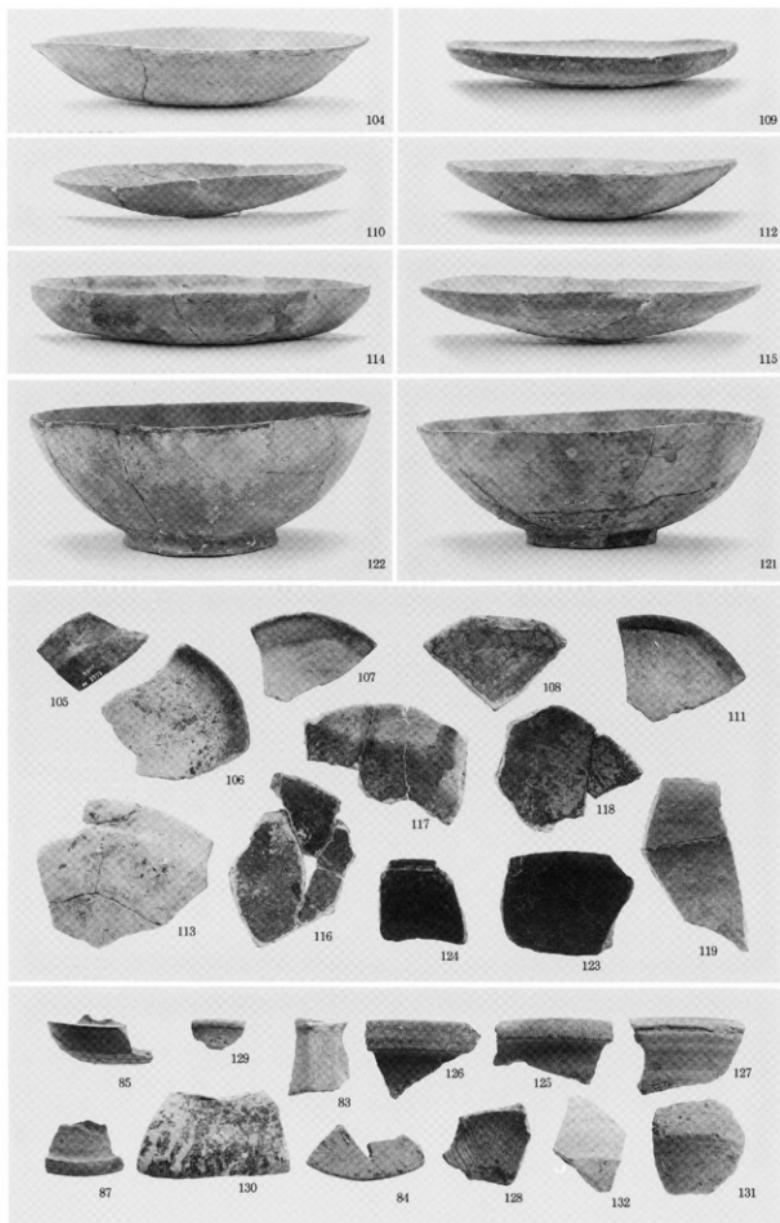
S K 9 (21・22)、S K13 (24)、S K14 (25・26)、S K16 (27～36・39・40)



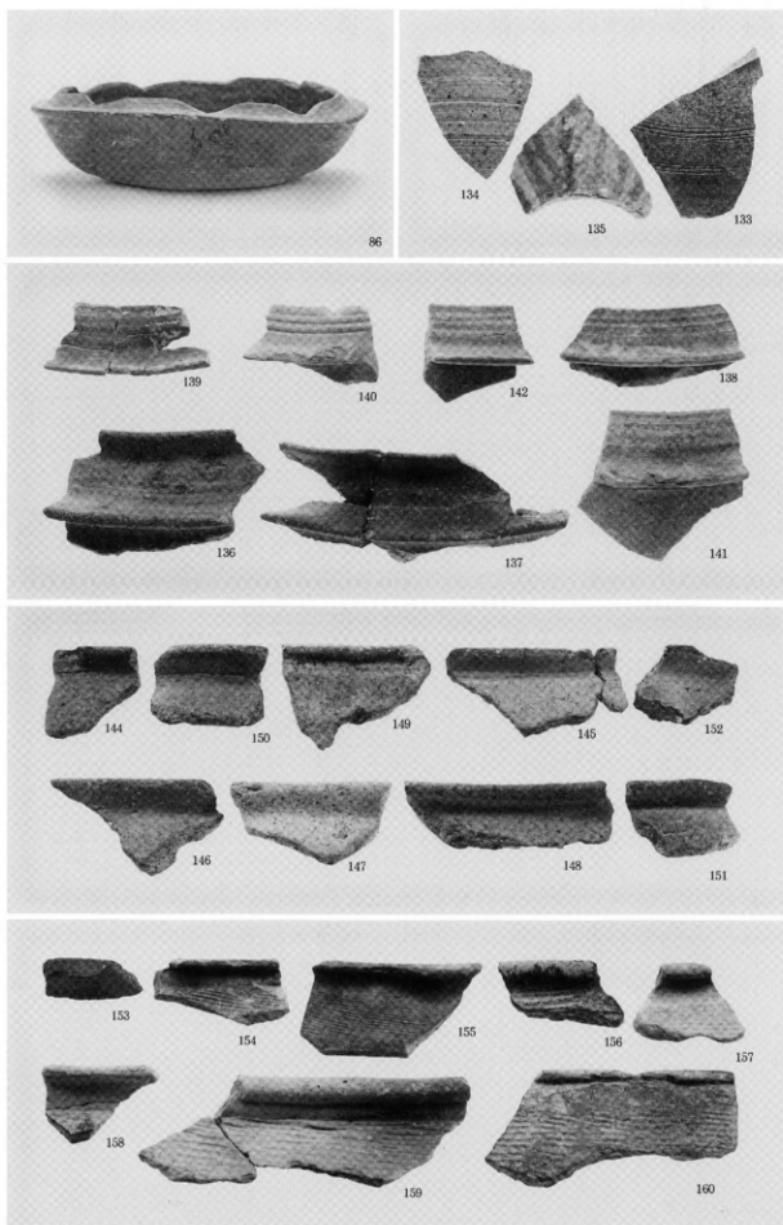
S K16 (37・38)、S K17 (41~44・46・47)、S K19 (48)、S K20 (49)、S K21 (50)、S K22 (51・52)、
S K23 (54・55)、S K25 (56)、S P 1 (57)、S P 6 (61)、S P 7 (62)、S P 8 (63)、S P 9 (64・65)、
S P10 (66~69)、S P11 (70)、S P12 (71)



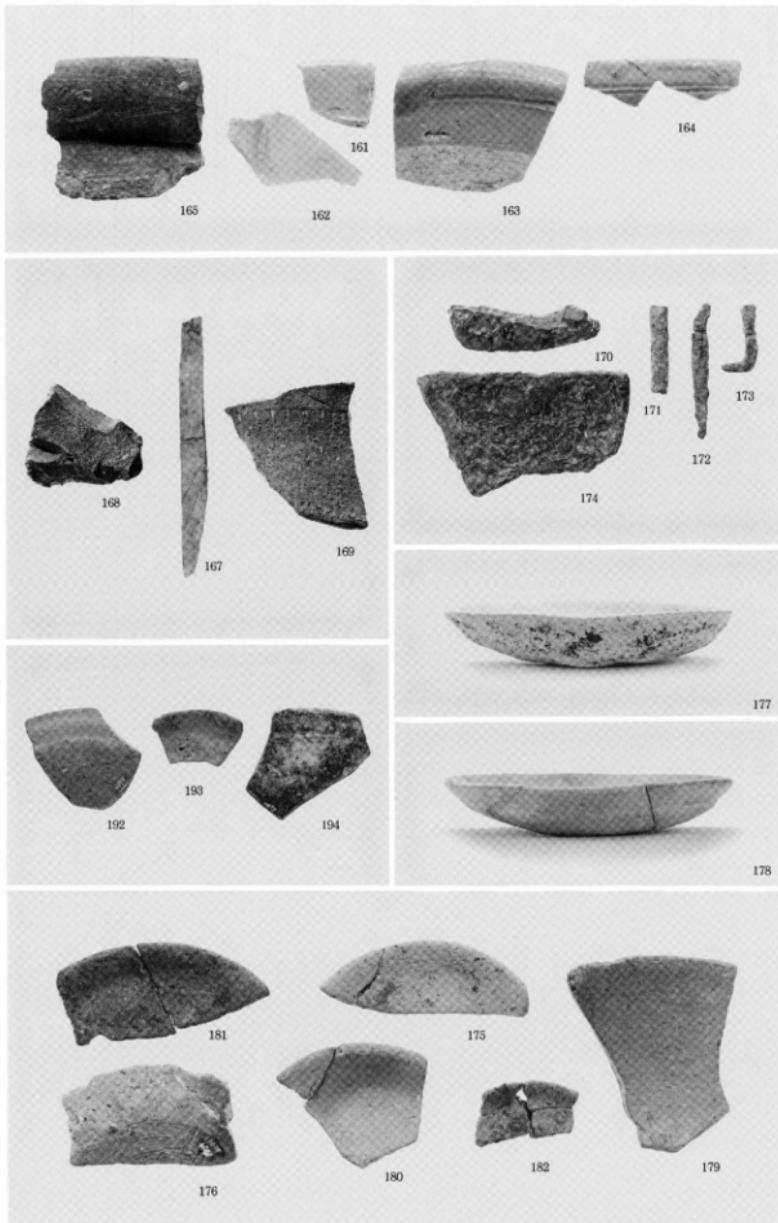
S P 2 (58)、S P 3 (59)、S P 5 (60)、S P 13 (72~74)、S P 15 (75)、S P 16 (76)、S P 17 (77)、S P 18 (78)、
S P 19 (79)、S P 20 (81)、S P 21 (82)、包含層 (89~103)



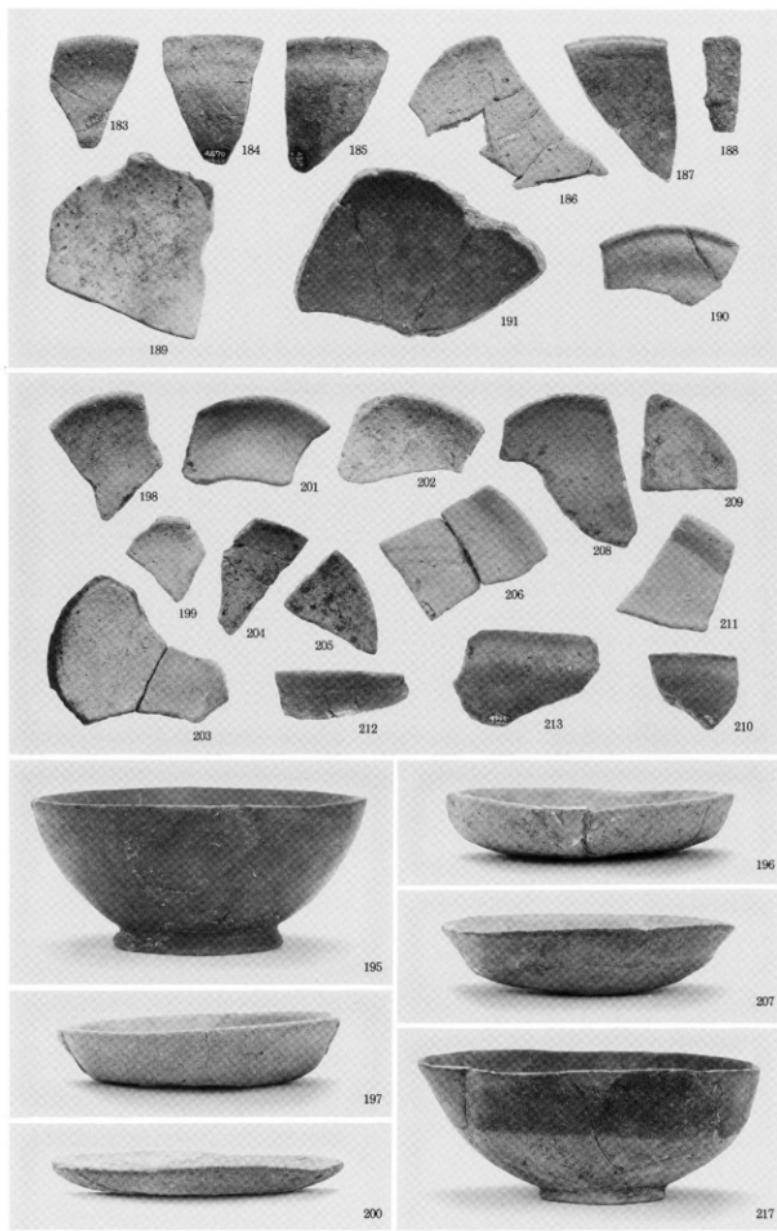
包含層 (83~85・87・104~119・121~132)



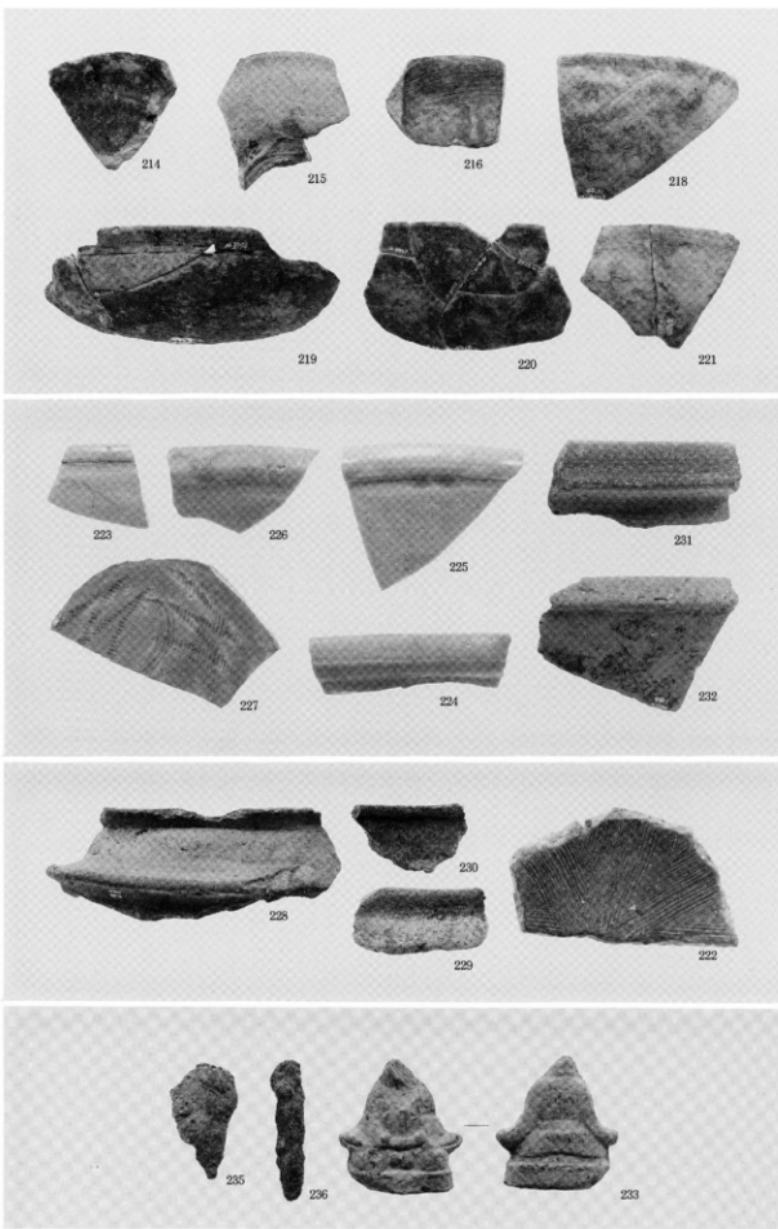
包含層 (86・133~142・144~160)



第1調査区包含層 (161~165・167~174)、S B 4 (175~177)、S B 5 (178)、S B 6 (179)、S D 11 (180・181)、
S D 13 (182)、S P 22 (192)、S P 23 (193)、S P 24 (194)



S K28 (183~185)、S K29 (186~188)、S K30 (189)、S K31 (190)、S K32 (191)、包含層 (195~213・217)



包含層 (214~216・218~233・235・236)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	みやのしたいせき
書名	宮の下遺跡
調査名	河内長野市遺跡調査会報 X
シリーズ名	河内長野市遺跡調査会報
シリーズ番号	X
編著者名	尾谷雅彦 烏羽正剛
編集機関	河内長野市遺跡調査会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396-3 TEL 0721-53-1111
発行年月日	1995年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
みやのしたいせき 宮の下遺跡	おおさかみかわちなかがし 大阪府河内長野市 たこう 高向	27216	河114	34° 26' 30"	135° 33' 15"	1993.5.19 1994.2.14	1750m ²	宮の下農道新設 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
			掘立柱建物	溝		
宮の下遺跡	集落	平安時代 → 鎌倉時代	6棟	13条	黒色土器 土師器 土師質土器 瓦器 輸入陶磁器	

大阪府河内長野市

宮の下遺跡

1995年3月

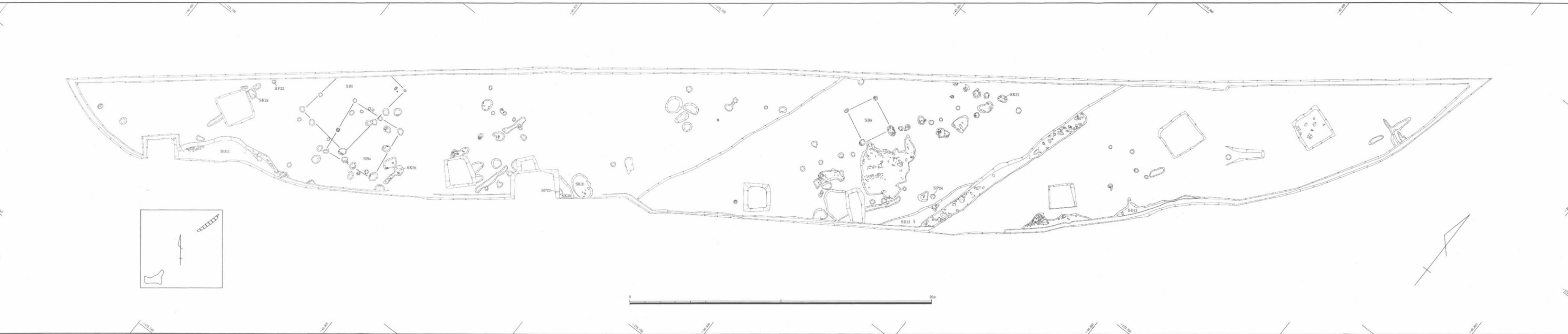
発行 河内長野市遺跡調査会

印刷 中島弘文堂印刷所

□□□-□□



付図1 宮の下遺跡第1調査区遺構配置図 (1/100)



付図2 宮の下遺跡第2調査区遺構配置図 (1/100)

